



大伴金道忠孝圖會

後編

六

13
2692
11止





18
2692
114

大伴金道忠孝圖會後編卷之五

目錄

- 金道擒道智并大友真鳥隱謀露頭
- 真鳥宇佐宮社恭并大友皇子靈罰真鳥
- 真鳥皇子の靈を悩まざる圖
- 官軍西國下向并大友勢出張
- 内浦濱合戦大友勢敗軍
- 内浦の濱に木免若勇戦の圖
- 真鳥三笠山出張栗隈十面埋伏

京軍敗大友勢 并真鳥大力戦
 大友真鳥血戦京軍敗走の図
 京軍攻大友出城 并佐伯連男弓勢
 京軍攻大友本城 并金道断敵城水道
 雷火焼兵糧 并岩陷落金道討佐伯
 金道敵城の笥と掘崩と図
 金道討真鳥復仇 并大友家本領安堵
 天誅遁とくく真鳥金道と討る図

大伴金道忠孝圖會後巻之五

浪華 好花堂野亭著編

金道擒道智 并大友真鳥隱謀露頭

夫罪の顕なるは王法是と刑罪の隠るは天道是と討を故古より
 隠悪の者其志を遂ぐるは無少時遲速有と雖了小天討と蒙りて亡
 ざる者ハ未有之を人の高欺くを天を敢て欺くをうす。偕も妖僧
 道智ハ執田宮の寶劍を盗取足早小海辺までま往夜の明るを待て来
 名渡海とる船小便船を乞己小岸と離て二里許沖へ棄出する小俄小
 日和變り一天の曇り逆風吹起る程をあた大雨車軸と流を如く降出
 雷電鳴閃れ逆浪天を浸四方冥くと大黑暗と成る小水全掃
 子大に強れ船艦小働た帆を下し楫とあやぶれを叶ふこと己小覆らる

とるふより。乗合し衆人生る心地なり。今や海底の水屑と成らんとは
丸船六如何もして素多乗着んと蝶も中々羊間も向を進まざれば浪小
揺上揺下して漸く吹戻し岸の吹着る。船中の緒人始て蘊生心地
音息吐き心合ぬ是道智が宝剣を奪去り我神聖の怒り処めりあり
とハ維う知るれ只道智の其ハ知覚も大膽剛腸の曲者あれば猶も心
船より下り陸路を廻り九列下らんと美濃近江をも通過大和あり
不知案内あが足小任せて走りたる。且統大伴金道ハ吹戻の絆小身を寄
る昼夜又母の仇を復さん更と思計もいさ自力小能はれ唯神明の威
を頼む小不如と日國布面の社ハ七日念龍一心と凝り復仇成就させり
と符念し々小七日満むる夜の暁少時睡眠も同の夢小神殿より影質了
結する天童一人現れと出金道小向ひ你丹絨と疑り又母の仇と結ん更と符

更神妙なり符が氣運頓々用れ本意と達も更遠う今朝雷雨
の後當社の竟内小人の僧の仆と者有る。其者と搦捕り朝廷へ
曳弘ふむ自然復仇の便を得んと告ぐとん夢覚り金道奇
異の思とわ。偕ハ我祈願と納受せり。神力を加へ小ふとと信心肝小
銘。最頼母思ひ猶も額位と符念し々内夜ハ反々明とる
小忽ち雨降出漸く大雨とて盆を傾るが如く雷鳴連れ雷光
透間を閃たる小雷雨の後仆僧有る。其の夢想も思ひ合され
暗る今やと待ふ。却貌妖僧道智野小伏山小伏と道と急今
朝も未明より其其所も其往々小夜の明る頃より雨降出
々るゆへ人家あつと足と速く走る小雨頻降暮り雷電冷く
鳴閃た前路も見え半暗く成るれ道智大困り果人家ハ方れと

電光の影も見廻せぬ。朱の玉垣華表の見えたる小を備へ神社有方と。時雷雨を避へんと。華表の裡へ走り入るや否や。勿心ち電光大い激ると。比く。雷霆喘ぐと。浴するも。道智此音小。膽魂顛倒。其気絶。大地へ。仆伏る。斯く程。雷鳴止雨漸く。晴往れ。金道を雷雨の治と。えく神前へ起社地を往廻り。見る果して。夢想の如く。華表の内へ入り。旅僧仆伏てあり。是ぞ。脚告の僧ある。寄て刀の提緒を解く。小手強く縛り。背負する。裏と解く。檢る。袋錦の袋納る。劍と。柿染乃。裏。袂不推捲る。金道不審暗を。何れあれ。朝廷へ。曳往らぬ。夢の。告小任。朝廷へ。曳んと。思へ。大の僧の。絶死を。一カ小及び。社勢の。第宅へ。往對面して。夢想の趣と。結。示現の。旅僧の社地。仆伏る。を。搦めて。自力。凍と。朝廷へ。曳往らぬ。叶を。何卒。助力。あつ。轆も。

あれ馬もあれ。借のりゆ。頼る。社勢も。夢想の物。感。且。旅僧。乃。劍。持。怪。思。先。金道。引路。傳。僧。の。邊。往。く。實。雲。突。絆。の。大。法師。縛。れ。伏。猶。生。氣。付。在。多。更。奴。隸。命。と。雷。生。丹。會。水。と。飲。せ。呼。生。せ。半。時。絆。あ。息。吹。返。社。勢。近。寄。て。和。僧。何。國。の。産。法。名。何。と。号。と。号。と。問。小。道。智。始。心。付。身。と。強。く。縛。る。小。狭。れ。兼。て。習。修。幻。術。小。千。條。の。繩。も。能。脱。る。更。得。れ。急。小。兒。文。と。唱。身。と。動。脱。ん。と。と。如何。更。幻。術。行。れ。縛。繩。も。弛。れ。心。恍惚。と。放。せ。混。と。惱。果。て。人。外。を。去。社。勢。と。金。道。交。名。所。と。推。回。道。智。と。只。此。と。一。言。も。答。さ。不。愈。胡。乱。の。者。なり。と。社。勢。奴。隸。を。一。棹。の。橋。を。昇。せ。道。智。と。推。乘。れ。金。道。怡。び。燈。人。の。為。社。勢。と。

日伴ノ奴隷ノ橋を昇せ先石上る吹負ガ邸宅へ急がせたる是ノを
以前ノ尾列勢田ノ六番筆電せ旅僧夜中何地へ往けん是ノを
社人們大ノ訝リ近辺ノ尋捜せも曾て知されを怪とて捨置る不
其日より第三日ヲ神殿内陣とも掃除する日不當々有常例ノ
社人們ヲ神殿ヲ掃淨め内陣ハ神官大宮司ヲ掃淨る例也内陣入
見る不錦ノ帳少ノ用ノ人ノ出入せ如たれを大ノ怪と脚帳の内入脚劍
乃不宮と云ふ是ハ如何鎖と云ふ放ノ宝劍ハ無リタル也大宮司仰天ノ其
四邊ノ搜尋せどもおろろを信疑た惑以内陣より走出る遽ノ社人等
呼集り宝劍紛失ノ義と云はせ直宿せ者ヲ責糾と小衆人も大ノ
強ク何者ヲ盗去と評議する不付三日以前まで衆龍せ旅僧夜中
行方未だ立去社怪と云ふ又其前夜ハ額已と落將又其前

夜物も障ざる不神鈴の隨も又異れ更なりと云も有る大
宮司大ノ怒り更わを疾より我不告する何分其旅僧と疑
くれ己不三日以前立去今遠く逃延く追も其甲斐有る不
抑彼脚劍ハ天照太神より傳り三種ノ神音ノ隨も日本武尊宮
酸媛不授のひより當社禰リ奉り天下ノ至宝なれ毎夜多人數を
以守護させ不你們が怠慢より紛失させ我一命と召るハ數あり
數十代連綿と永續せ家名ノ断絶せん社嘆くはと額不手ノ加沈
黙して在る社人們互不目と目と見合せ皆面色如菜身不冷汗を流
許なり大宮司稍思返彼賊僧と捉を御劍ノ所在ヲ知由ナレ
云々當ある曲者我力不及々朝廷ハ日本國中ノ寶殿重宝ヲ不知
有る罪科免とされ一命ヲ捨斤時も早く奏達せんと有るは俄

馬曳出させ取物もとう終む内と飛乗混鞭あて。飛鳥の都を蒐行る備
又大伴金道布苗の社司と支連橋と早ませる吹負が邸宅へ飯り叔父の
對面して有り。顛末と結ぶれ吹負大い小悦び白虫太息們と俱お走り出で。橋
の内なる罪囚をいふ。実庸人かぬ面魂あて。袋お納る劍も一方おぬ密
劍と入んえん急だ朝廷へ奏聞するふ不如と吹負金道布苗の社司を伴ひ
白虫太息輪の左右を守りて。淨見原の内裡へ馳参り。執奏の公卿お就て更の
顛末と奏聞する。身お依り其趣を大聽小達し。天皇即ち件乃劍
拔召させぬ。睿覽あまお正し。熱田宮の神体と崇祭る。草薙の寶劍
かりたるふを睿慮以の外お驚させぬ。火急お緒御と召さ。脚絆儀區
くたる所お急ち。熱田大宮司。飛馬小鞭と當て馳参り。禁門より馬を起下り。
大汗お成。脚階の下へ参候して。恐る。脚劍紛失させぬ。一昔と奏聞し。飛

諸卿詮議有て。然る彼僧。参籠と偽り。神宝成盜取。ふ紛かり。あれ
おがらげぬ。靈劍を奪ひ。する更。深お所存おえ。有る急。急だ有
司の官人小殿。跨り。問させ。る。妖僧と搦捕。金道が功拔群おれ。いも
恩賞。後日。沙汰。有て可。先吹負金道。私宅へ飯る。とて。脚暇。多
太官司。大切なる。神宝。奪取。し。小。是。又。罪科。後日。小
沙汰。有。人。追。禁。足。閉。門。と。て。飯。國。させ。れ。去。程。小。右。司。の。官。人。の。妖。僧。
道智と強く。跨り。問。し。れ。只。口。答。へ。て。一言。も。白。状。せ。ず。水。火。の。責。ハ。以。て。更
り。背。と。裂。て。銅。け。と。洒。れ。血。を。抜。火。柱。と。抱。を。お。百。般。小。呵。責。し。れ。む。は
と。強。勢。の。悪。僧。も。神。討。て。邪。術。を。消。遁。去。る。能。と。呵。責。の。苦。痛。小。堪。る。
了。小。真。鳥。が。頼。小。心。熱。田。宮。小。参。籠。と。脚。劍。と。盜。去。茶。名。の。海。上。お。下。
雷。雨。小。遭。布。苗。社。地。お。雷。の。く。小。絶。死。せ。更。々。悉。く。白。状。お。及。々。お。下。

其趣と檢非違使より言上りくる小ど。緒卿再び致され彼大友真鳥社
王位と望む朝敵なり。急だ征伐かゝる勢と奏せられ小天皇聞食（深
く睿慮と廻下りのひ彼真鳥逆意と企る上ち。抄捨置かると久も賊僧呵
責不堪の跡形を義とや中なれば猶ぞ真鳥が隠謀の突不ぞ探糾
を命りと勅旋なり。然る折々草壁王阿蘇粟隈と召具とて参内あり。
即刺龍顔と拜しめて。粟隈が呈せし真鳥が叛逆一味の連書及び敷通
乃密書と睿覧不具のひ且百済國より来し。御即位慶賀の使者と殺し。
五艘の貢物と奪掠し義と奏しめて。主上大兄逆鱗なり。これ真
鳥が逆意疑ふ所なり。急だ殊伐の針儀と廻と命りと宣告下りくる小
草壁王勅命と奉りて。退て緒卿と真鳥征伐の評儀とかり。ひ粟隈
隣國を自ら國下り。真鳥が動靜と探せり。とも。脚暇と賜りくる小ど

粟隈の内裡下り藤井と草壁王の御所預置其身。筑後下りける
諸彼悪僧道智ハ白状せし後。嚴く禁獄せられ。小。數度の踏向小
肉裂衣骨確け其土を狂して。己が是まで為る悪吏と悉く口を。昼
夜言り叫び狂ひ蹠た。了小獄中狂死し。神野の程と恐し。れ
真鳥宇佐宮社参 元大友皇子靈詩真鳥
却説大友真鳥ハ道智が捕られ委細白状せし。り。隠謀露顯せしとち
夢のち。只管道智が。取る。待々。小一夜の夢。小。位乃官人。まつて
真鳥が五体と悉く斬放と。して。驚た醒甚と。心穩と。あ。四肢隠
と疼と。覚る。垣の雅明と。近く招れ。我前夜如此。くの悪夢。又。な。ん。ん
か。今朝猶手脚痛有が如し。此夢の言。如何有。を。同。々。れ。雅明。微笑
し。夫夢ハ虚妄の者。お。古。より。種々。小。評論。あり。い。ふ。もの。必。竟。む。る。知。と。執

小足を以て君此頃久く外遊一の心をさすやと氣血許許し。おつて夢を
かゝる成を。何を英雄の御身とて。婦女子の如く夢を以て吉凶を
論じ。及いぬ。只御許散の。猪狩又ハ御遊山を。社を
いふと練りたる。直鳥少。心休め。左右悪夢。更心頭小
く。字佐八幡。社奉。悪夢の碍と讓んと思ひ。これハか
雅明小向。你が勸。頼。我字佐八幡。社奉。を。你を
隨逐の者。渡。命。雅明領掌。退。六人の辟女。妻
と先。其の女房。殿真鳥。公。前。字佐宮。御社奉。ある。同。各。方
隨。花。取。御。供。有。觸。潘中の緒士。も。様。觸。傳
已。其。日。小。たり。を。雅明。真鳥。が。心。を。驕。せん。十分。花。美。と。及。り。く
先。前。從。の。者。三。百。人。ハ。二。行。ハ。サ。セ。其。次。小。奉。納。の。神。馬。七。疋。と。曳。其。次。小

神供の唐櫃十掉と卑せ。其次ハ弓の士二百人。其次小馬上の弟一大野熊尾
二永。水原真。雀。三番。那古金。鍬。其次ハ大将真鳥。金の唐。革。小。造
唐冠。と。高。く。項。錦。の。袍。唐。織。の。服。指。貫。玉。の。帶。及。太。刀。不。至。る。を。錦
绣。珠。王。の。善。美。と。尽。し。雅明。が。兼。て。造。綱。も。黒。漆。の。殿。上。輿。の。金。銀。乃
金具。繫。く。お。さ。る。小。錦。の。袴。と。敷。せ。り。亦。乘。物。見。の。衣。を。用。さ。せ。悠。悠。と。形
相。ハ。お。が。り。王。者。の。如。く。ど。ん。を。ふ。り。其。後。小。續。く。六。人。の。典。侍。内。侍。羅。漢。錦
繡。の。衣。と。纏。て。朱。の。鉄。乘。轎。小。亦。乘。て。卑。續。け。ま。せ。其。余。の。女。房。ハ。思。く。乃
伊。達。小。袖。小。推。ハ。飾。り。陸。路。を。歩。い。後。隨。ハ。垣。の。雅明。馬。上。爽。不。出。て。徐。不
約。と。歩。せ。其。後。小。八。百。余。人。の。士。卒。幕。帳。行。厨。酒。壺。其。余。の。綢。度。と。卑。櫓
列。と。正。し。續。く。天。子。の。御。幸。け。り。も。もの。斯。程。小。亦。有。り。と。無。數。の。貴。賤
同。と。敬。馬。さ。ん。ハ。か。り。り。其。中。ハ。悪。政。非。道。小。万。民。の。真。血。を。絞。取。已。乃。王

候のてく。驕奢を次ふ。栄耀を極め神小錯もるとも。神明争う非礼を受
のふふ。却て神罰を蒙り。身の衰滅を招くらんと悪く。継りも多う。諸
真鳥八路上風景よ。地小く。陣と取酒宴を催。活針歡樂。小万金を費。
目と重く。宇佐の宮居。小者も。抑當社。性古神功。皇后三韓。伐平
げの。御凱陣。此地小く。御座の。紐を解。以。芽出度。皇太子。御誕生
あつ。後。小。應神。天皇。と。尊号。一。なる。然。小。三十四代。推古。天皇。三年。小
當。地。天。より。白。幡。四。流。赤。幡。四。流。天。降。我。と。神。小。祭。る。事。と。禊。宜。ひ。小。より
宮。殿。と。造。宮。一。八。の。幡。天。降。一。以。以。八。幡。武。太。神。と。神。号。一。なる。の。此。帝。と
殊。更。武。勇。小。長。ト。ひ。ひ。武。太。神。と。崇。ら。れ。武。士。六。弓。天。神。と。推。尊。び。氏。神。と
仰。だ。ま。り。され。真。鳥。も。悪。夢。の。不。祥。と。禊。ひ。武。運。長。久。を。祈。の。為。奉。幣
一。ち。ら。んと。前。以。て。宇。佐。の。大。宮。司。へ。使。者。と。立。り。大。宮。司。ハ。社。人。を。多。く。從。て。

遠く出迎て。客殿小錯戴。卿食忘懇懇と。其後神殿。神樂を奏。
ハ。小。女。と。舞。せ。種。の。法。樂。も。終。り。れ。真。鳥。ハ。雅。明。小。命。と。神。供。と。捧。げ。神。馬。と
献。ら。せ。諸。神。殿。と。ま。り。拜。殿。小。羅。紗。猩。々。緋。の。敷。物。と。布。せ。典。侍。内。侍。及。び。多。く
乃。女。房。近。習。們。を。集。り。酒。宴。を。促。絲。竹。の。調。小。真。と。催。し。多。う。家。士。の。面
々。末。の。士。平。々。社。地。の。此。所。彼。所。小。席。と。設。け。行。厨。と。并。り。酒。瓢。を。傾。け。狼。の
こ。喰。ひ。饜。の。飲。瓶。ひ。つ。踊。つ。我。と。忘。り。真。鳥。も。樂。多。う。真。鳥。ハ。醉。小。廉
て。席。と。起。多。く。の。女。房。と。將。て。長。柄。の。朱。傘。さ。し。社。地。を。東。西。南。北。と。道
遙。一。風。景。と。眺。望。し。て。樂。多。う。小。俄。然。と。陣。の。魔。風。吹。發。し。く。只。者
一天。須。臾。小。く。曇。り。大。雨。盆。盪。と。傾。る。如。く。降。頻。て。電。光。激。一。雷。鳴。車。く
小。と。真。鳥。が。前。後。不。隨。從。女。房。小。性。の。啼。哭。と。叫。び。恐。慄。死。逃。往。人。と
ま。り。の。雷。電。倍。え。げ。鳴。閃。に。暴。風。人。を。吹。仆。し。天。維。も。浴。地。抽。し。確

真鳥八路

るむらりて。強雨いよく降。募四方暗夜の如く。咫尺の間も見えられぬ。只に
叫ぶ許なり加え。多し。雷霆幾所もたかく。落是か為小擧げ。死する男女二
十余人絶死する者。數あつた。車輪の如く火の玉。空中散満し。恐ろし
吏言結不絶せり。強勇の真鳥も思ひ多。天変小心。驚たあがり。尚も
億と見え。空を睨で。停立する。小唯看雲中。大友皇子の脚姿。頭後と現
とのり。其形相高た冠と頂た。白死脚。衣束の下。小腹巻と穿ち。脚髻
ハ四方散れ。脚眼の光星の如く。憤怒の顔。妻が。真鳥が面をもち。睨とみ
くろふ。真鳥大。恐驚馬た急。小逃んと。五躰。瘡と。動れ得。白皇子
乃憤。雲を。雨。小。龍廻る。火玉。右。手。小。擧。で。真鳥が。頭上。投下し。其。音
霹靂の震が如く。凄まじい音。し。真鳥倍。怖と。急。小。身。と。雨。く。火。玉。と。大。地
小。鳴。響。き。て。唾。と。落。其。音。耳。と。聳。か。如。く。眩。暈。で。屍。居。小。喘。と。付。と。其。終。氣

然失ひ。人。更。と。年。を。さ。り。々。斯。く。漸。く。小。風。雨。止。雲。晴。む。ら。白。日。と。行。々。れ。衆
人。一。心。地。一。氣。絶。せ。り。者。と。呼。生。む。と。ま。る。小。大。將。真。鳥。松。原。小。阿。能。一。と。付。と
居。々。る。小。と。雅。明。疎。た。扶。起。と。ま。湯。火。含。め。左。右。と。る。内。小。よ。く。生。氣。つ。死。近
習。們。小。扶。ら。れ。大。官。司。の。館。入。褥。の上。伏。て。向。々。る。雅。明。熊。尾。以下。の。徒。人。數
を。点。檢。と。る。小。雷。小。擧。ま。り。死。する。者。女。三。人。小。性。入。士。卒。十。七。人。其。余。千。脚
と。焦。一。毛。髪。と。焼。一。者。五。十。余。人。小。及。々。れ。皆。怪。う。ね。天。變。や。と。舌。と。出。し
て。悲。合。々。真。鳥。と。大。友。皇。子。の。姿。猶。眼。前。小。在。ぐ。と。サ。り。ひ。て。筋。骨
も。隱。く。と。痛。と。々。る。此。地。小。居。る。も。何。と。なく。心。よ。く。雅。明。小。下。知。と。雷
死。の。者。の。屍。成。糸。心。く。葬。せ。り。残。る。尸。勢。と。揃。宇。佐。と。ま。り。本。國。へ。と
々。る。小。以。三。則。き。も。伊。達。を。飾。男。女。の。衣。服。も。驟。雨。小。沾。ひ。り。色。変
り。見。苦。く。かり。諸。人。の。目。と。驚。馬。一。行。列。も。順。次。混。乱。し。い。ち。と。と。般。國。を

金道中の孝圖會後高五



官軍西國下向 并 大友勢出張

浄見原の都きよみはらのみやこの高市王忍壁王たかちのうぢ大津王おほつゆのうぢと首くびとて緒御よきみ御評議みひらひ有あ。造つく成る

 證迹あかし有あ。六朝敵むつしゅうてき大友真鳥おほともまるとりと先まづと。味あじの族うぢ殊ことごと伐たとて先まづ五畿内いみの國くに

 司郡司しごんしと朝廷てうていへ召よす。大友真鳥おほともまるとり朝敵あそてき紛ま紛まるる。今般殊こんぱんじゆ伐たとる所ところの銘めい

 軍勢ぐんぜいと募もり。長門ながのの國府くにふへ會令かいめいと仰渡おほせされ。征將せいしやうの大將だいしやう藤原ふじわら

 淡海たんかい小定こさだりて節刀せつたと賜たまひ。軍勢ぐんぜい二万騎にまんにんと授たまはる。偕副將あひふしやう大伴吹眉おほともふしめが

 姪めい大伴金道おほともみち小定こさだりて是こゝ又また二万騎にまんにんと授たまはる。金道きんみち八當年はつたうねんいさむ十八歳じゅうはちさい

 乃すなはち若年わかしを先祖せんぞの由緒ゆいよとひ。妖僧ようそう道智だいちと搦捕なほと密劍みつけんと過あちかかく朝廷てうてい

 へ入脚いりきゃくか。奉たまはし勳功くんこうある上草壁王かみかきのみこの貴曹きそうの御命みことと助け進ませ且かつ真鳥まるとりハ

 金道きんみちが父母ふぼの仇あだれ。彼是こゝの由縁ゆゑんとひ。草壁王かみかきのみこより帝みかどへ御吹舉みふきあ右みぎへ

 くり大任おほにんの宣旨せんしと下くだされ。此日このひ吹眉ふしめハ草壁王かみかきのみこの御内命みうちのみことに依よて

金道きんみちが將しやうと参候まゐりまう。これ叔姪おしめい此宣旨こゝと頂戴ちやうたいと吹眉ふしめが喜悅きえつなり。更さら

 かり。金道きんみちハ天あまも上ある心地こころぢ。多年おほねんの愁眉しゆめいと時とき小完こゝろは是こゝ偏ひとへ布苗ふなほ乃すなはち

 神助かみすけ草壁王かみかきのみこの御仁惠みことに因より。感涙かんだいが流ながれ。恨うらみも變かり。叔姪おしめい共ども

 低頭ひだう三拜さんはいと厚あつく天恩てんおんを謝あがり。勅宣ちやくせん已ま終はる。淡海たんかい公のみこを先まづ

 とて皆退みなひ出でる。其中そのうち吹眉ふしめ金道きんみちハ依よりて石上いそのかみへ立たり。龜山かめやま又また子こ

 白虫あかむし夫妻ふさい亦また高連たかづら荒あら。小宣旨こせんしの趣おもを結むすり。皆みな雀躍さくたつして大おほ小こ怡よろこ

 び各起みなたり。慶賀けいがと演ある。吹眉ふしめと近侍ちかざりの侍さむらひ兼かみ命のみことを三方さんぱう土蓋つちがせと出でさ

 せ。金道きんみち主従しゆじゆと慶けいの土蓋つちがせと取とり。偕あ金道きんみち小向こむかひ。你みづか己おのれハ真鳥まるとり小害こがせ。

 龜山かめやま又また子こ。搦捕なほと大おほ義よ依よて。毒蛇どくがの口くちを免まぬれ。威人いじんハ人ひと。

 今いま將軍しやうぐんの大任おほにんを蒙あり。武運ぶゑんふ叶あひ。八言はつげんを言いふ。今いま大見おほみ白虫あかむし其その余あ

 此席このせきに連つる。輩たぐひの深忠ふかぢゆに因より。臣下しんげとて其その思おもひを立たてる。

戰場小臨も。勇氣小逸も短慮と慎る。橘龜山と万変と面議
其練小停も。おれ尺朝敵なり父母の仇も真鳥と討つ。大伴の家名を
引真とこそ肝要なれ真鳥ハ武略こそ拙なれ勇ハ九列一島小隠ある大剛
の者めれば漫く不覚おとると。然れどもと。更小臨と卑怯の舉止して。武名を
汚しと更ふと。細密教訓。兼て綱軍一甲曹具と秘藏の鶴鳥丸と号せり
太刀小短刀取添く引出物く。うたれ。金道深く其仁慈を以て教訓を贈
小銘も感涙も。喉く低頭平身。厚く鴻恩とぞ謝り。白虫太息以下ろ
筆も俱小怡ハ其慈恩と謝り。白虫吹肩小向ハ我主從今般會誓の旗と
揚ハ更天恩小因とつと。ハハハ君の脚扶助小有とんを。争う今度の出陣ハ
ハハハ猶戰場の進退君の脚下知と。廢幾なりハと言々。小吹頭と揮合
我ハ今度の戰場ハと向く。且義絶ハ。ハハハ。會弟たる真鳥と。此雄と

争ふ心小快く。ハハハ公の朝敵なれハ。私の縁と以て黙止なれハ。ハハハ。身も
老屈して進退主意小任せむ。草壁王も。出陣致し難れ旨と願ハ脚免を蒙
らる。你と龜山我ハ代り進退と指揮ハ。ハハハ。言々。白虫太息も。経方なく
止小く。斯く吹肩も出陣の準備と急死手勢七百余騎と金道と授け
藤原家と謀ハ。合せ両家も軍装整ハ。淡海公金道を伴ハ。兩将爽小
鎧ハ。参内あり。出陣と奏せられ。ハハハ。依て。天無と賜り。ハハハ。兩将纏て頂戴
拜謝して退出あり。白鳳十年辛丑八月朔日。兼出度首途せられ。藤原家
と林軍二万騎の余小手勢三千騎。大伴家。林軍二万騎の余小手勢七百余騎。都
合二万四千騎。今度朝家の募小應。ハハハ。林軍の緒將ハ。佐春衝六分惠尺
三輪直入大鳥。縮月。石津。立彦手。當麻。弘坂。上猪毛。豊嶋。操。ハハハ。五幾内
軍家。ハハハ。旗。旗。風。小。勇。進。ハハハ。進。長門の國府ハ。下向ハハハ

後小兼て朝廷より中園筋の緒将も今度真鳥鉄伐の征将を差向らる
間加勢を召えり觸渡され依に追て官軍の馳加る輩の播中六郎
摩武躬印南古臣吉備四小士備小道下回菅生周防小友羅白王山
委支あんど五百騎八百騎引率と加りたるほど長府著到る頃ハ三方
余騎不及れ官軍の軍威大不震ひる是より前小大友真鳥字佐下飯
國の後六何となく心地例なきと遠近の醫師と需めて保養を如明暮道智
の消息と待々小一日水原真雀遷々出伺真鳥小告々々某回巷の風流
を中へ小即依僧道智朝廷に捕れ万更白状及ひ上阿蘇栗隈彼藤
井内侍を伴ひ都へ上り連書密書と送迹と君の御企と公ひひ依て已
小朝敵の罪名極り藤原淡海を征将の大將と大軍都と發足早播列追
下向せりとて民家の者も豫々色と変と注進へれ真鳥大不仰天

急小更訓る者數人を問者と敵の動靜と探り多しむる小三日許過る追小
馳取り敵軍六七方騎己子長門の國府著到野小亮山小満と取船小
當國押寄んと軍儀取中ふ大将藤原淡海副將ハ先主馬末田公の
秘金道丸殿今ハ大伴金道と名兼道智といふ法師を擧げ密劍と禁廷
へ献り功ありて副將の任を蒙れと風流ひいと報れ真鳥大不怒
り黄口の臍子芳城山と拾教とぐ々々奴を平延すとせ今小及べり
奇怪なり又彼藤井ハ栗隈が問者とあひ密書と奪れど腹をくられ此上
も一味の輩を廻集の一番栗隈と攻て敵小菓向く一戦不蹴散直小都へ
攻上んと火急小一味荷檐の輩私馬と立借雅明を招た栗隈鉄伐の難と議
々々小雅明ハもとや多年の本懐と達とた時節至来せりと悦びあが色小
も出さると曰々々ハ藤井内侍の義小就栗隈と伐りんと思召ハ更ふいへもま

一味の諸將催促小忠むや否や相多むと城中小兵糧も多うむと先兵糧
我十の貯へ籠城の備と堅固小其上下左も右もあり又輕忽く粟隈
を伐んと國と出の跡へ敵船路より不意小當城へ攻結ゆる落城せんこと
治定小唯當城を離れざるを逸を以て勞を待り社益をくみんと練められ
真鳥理小伏し粟隈攻伐の議少時き置急小多人數を以て領下の民
家小賄へ米麦廿叔粟黍稗やぐ悉く奪取せし城内へ運し又城下乃高
賈の金錢をも取まさせ多小と市人農民們八是も度く無体の裸役と債
られ上又如是の非道と恨も寫り私賊を抱て逃る者數と去る兵士卒ども
是を捉て無理小奪取んとす血氣の農民們徒黨と結び是を
擊入も有女之粟注叫び國中の騒動さるる鼎の沸がごとし真鳥八其等の
粟小八回もけむユ匠小命を坂の羊途小此若と築させ一味の諸士へ再度乃急

使と弛く催促し名を佐伯連男大伴且大串飯綱盤橋千足奈毛沖名ホの
面追く小湯の嶽の城へ参者太宰和田凡其餘猶真鳥小一味の輩をけ
まとも京軍の要勢たる小聞怕し或は後難と恐る約成交せど真鳥の慕小
心せざりしと然も弛集勢六千五百余騎と著到帖小紀し名を真鳥大
小力と得諸將と軍議を曰く敵軍船小く押寄るとも同鏡たるを
筑前國追まると夫より陸上へ當國へ攻入るとも當國小敵と待人も勇
かれ小似たり佐伯殿もめ未着の八筑前出張し地と見合せて船
小ゆりて足並定らぬ敵と一當あて撃撃しめを奪し合戦の模様小より
我も後より出陣せんと言々も小佐伯此議あるを以て同意し是も依て
真鳥八那古金鍬大野熊尾兩小二千余騎を授けて先陣させ二陣八盤橋
大串奈毛三陣八大伴且佐伯連男と定め惣勢八千五百余騎豊後とあきて

筑前へ向ひし。真鳥ハ不赤の輩へ再三の飛馬と主龍城の手當とをあり。内浦濱合戦大支勢敗軍

却説官軍陸路より敵國へ向ひし。道路險山悪所多く。敵の伏兵ある。計ごとく。惣軍數百艘の船小より乗連綿と續け押さる。小折も追風吹つた。船の行支矢より疾く。不日筑前國勝浦小着岸。軍小勝との縁義より。勇か。遠賀の湊より船上。後より味方待合と処小生乃松原の方より。群の軍馬土煙と揚て。近來系。須波や敵の寄来る。依位を多く相待。小稍近付て。一騎の武者真先。詰まり。大音。是ハ筑後國の住人阿蘇栗隈。小い。文屋廣島丹裳熊主。們と合。御先。近付。ん。小。是。ず。く。泰。い。と。呼。け。る。小。ど。京。軍。大。小。悦。び。大。將。淡。海。公。小。斯。と。報。れ。れ。御。喜。悦。斜。か。し。守。三。將。と。迎。て。對。面。あ。る。出。馬。の。旁。と。謝。り。小。金。道。ハ。栗。隈。ハ。親。れ。縁。

体なり。廣島ハ叔父あれ。各對面と互小悦とと限あり。一門始くて出會。栗隈淡海公小向ひ敵軍大勢。小内浦の濱。小陣と張り。某們先陣と仕らんと望。小金道進。出不先陣。其小賜。と乞。と。淡海公。小。の。足。下。ハ。副。將。軍。あ。れ。後。陣。小。隊。へ。先。陣。二。陣。ハ。他。の。將。小。讓。ら。る。と。下。知。あ。り。る。小。より。已。更。と。得。と。三。陣。小。隊。へ。去。程。小。先。陣。ハ。阿。蘇。栗。隈。文。屋。廣。島。丹。裳。熊。主。三。千。余。騎。二。陣。ハ。饒。摩。武。躬。印。南。古。臣。吉。備。小。道。三。千。騎。三。陣。ハ。伴。金。道。相。從。面。小。八。坂。上。猪。毛。當。上。弘。石。津。彦。平。三。千。七。百。余。騎。殘。る。諸。將。ハ。淡。海。公。小。屬。と。後。陣。小。隊。軍。威。盛。ん。小。遠。賀。の。湊。へ。押。出。し。貝。鉦。を。鳴。し。喊。を。發。て。内。浦。の。濱。へ。向。ひ。亦。小。敵。陣。と。見。渡。せ。む。九。八。九。千。余。乃。猛。軍。三。隊。小。分。て。陣。と。張。寄。る。敵。と。待。待。あ。れ。栗。隈。廣。島。熊。主。の。三。將。三。千。余。騎。と。魚。鱗。小。隊。と。中。央。小。お。と。る。豊。後。勢。の。陣。へ。押。寄。喊。と。發。り。矢。を。射。ら。る。

平家物語卷之五十五

おど。此隊ハ大串。盤橋奈毛の三人。三千五百騎にて備々るがはく用を發矢を射
ちぐ。矢軍果て互に合せ挑戦あり。京方二陣。筋大印南吉備の三人。三千騎
と敵の左隊。佐伯大伴が三千騎。互に向ひ互に矢と射。喚叫を攻戦。三陣乃
金道ハ坂上當戸石津。先立千勢七百餘騎。九隊あり。敵の右隊。那古大野
が二千餘騎。互に向ひ。金道が其日の軍装。八花純子と濃紅。井小染。鎧直垂
小卯。花威。小裾。金具。まげあり。鎧を草摺。長小着下。白星の五枚。兜の吹
返。雌龍。雄龍。を金と銀。彫総し。前立物あり。猪首小着。吹
負より。纒り受。就鳥丸と号せ。金造の丸鞆。太刀。短刀。帶。添。雁鳥の燻
尾。乃矢。三十六指。苦高。小負。重。藤の弓。搔。込。黄尾。毛の太。逞。馬。小
三引。竜。金貝。小摺。鞍。おた。燈。を。この。真紅の。厚。総。の。鞆。け。り。や
つと。折。乘。る。骨。柄。天。晴。大。將。と。譽。ぬ。者。と。わ。り。り。付。後。郎。堂。ふ。ま

つめ。か。ま。よ。ける。ど。う。く。つ。い。ま。し。も。の。つ。れ。を。一。ま。り。こ。う。ろ。
龜山太息曰。苗木免若。樞白虫。伴連。菟支摩。木高。多。多。年。狙。ひ。こ。古
主の。仇。真。鳥。成。討。年。末。の。誓。懐。成。散。せん。と。お。勢。ひ。猛。く。ち。と。喚。敵
乃。隊。小。舉。て。入。當。戸。事。小。斬。落。と。中。も。木。免。若。を。一。際。夾。小。鎧。馬。と
躍。せ。敵。と。討。り。七。八。騎。小。及。び。れ。其。太。刀。風。向。ひ。て。士。卒。も。兵。靡。非。避
通。す。茲。小。大。友。方。の。中。小。荒。嶋。返。鯨。と。名。無。鳴。呼。の。者。木。免。若。の。奉。止。心。憎
思。ひ。馬。と。拍。菟。向。ひ。大。友。家。小。さ。る。者。有。と。知。る。荒。嶋。返。鯨。と。八。我。の。り
と。名。告。げ。太。刀。を。拵。て。斬。り。る。木。免。若。心。得。り。と。り。合。て。太。刀。を。合。し。互。小
馬。戎。兼。廻。一。十。餘。合。戦。ひ。る。小。如。荷。え。荒。嶋。が。太。刀。鐔。根。より。折。散。れ。れ
心。強。ふ。が。ち。者。わ。れ。も。早。く。馬。を。寄。て。木。免。若。が。右。手。の。腕。小。無。手。と。組。付
り。木。免。若。更。も。せ。ど。左。手。小。敵。乃。上。帶。拵。ひ。り。曳。や。と。言。く。斤。半。小。指
引。又。三。丈。并。投。り。る。小。ど。き。り。の。逆。鯨。五。体。碎。り。死。て。り。此。勇。力。小。敵。卒。弥



内浦の浜
小太免若
勇哉

恐怖し近付者多かりし木免若機不乗。敵中と縦横して近愼し敵首
 を得る十三級小及多。金道も是れ不乗。以て敵首討つ。其余白虫太息
 木高連免も分刻の勇と奮て近愼し。豊後勢討つ者數あり。已
 小浮足ふかり多。処へ坂上當ノ石津が三千余騎と喚て伐てり。い
 ち支る。大友方愈乱と云く。右往左往不敗走と。金銀熊尾是
 以制し脚並を立整んとあせれども崩す。勢のあひ耳も中入を逃ま
 小と俱不敗平小引と三三三村と走りける。是れ八且とわ阿蘇文屋丹震
 乃三将と大串盤橋奈毛が勢と追つ返り戦ひ勝負いさかふれども二
 陣の饒上印南吉備の勢佐伯大伴が勢不近合と戦ひ多小。敵の勢ひ
 強く稍敗色ふんえくる上印南古臣佐伯が放せる矢小中で馬より落戦
 死々多小依り。小隊乱して散く不敗走と。淡海公遠小是れ成りて

急小佐春衛大分惠尺兩人小千騎を授て味方扶持せらる。二将攸若くして
 馬次乗出。緒平と力疾風如く強く敗れる味方左右用を。追来る
 敵と喰箇新平と以て攻進む。饒上吉備も是れ小力を得て又盛返し
 死叶と斬進。両軍入乱して挑合々々。大分惠尺ハ壬辰の軍の度々高
 名と顯し。大剛の勇将たる。大太刀を閃りて馬武者歩卒の嫌なく當
 残幸の寄と不運と切て落と。強將の下小弱卒なく。麾下の郎黨も主小
 劣む。勇と奮り敵と斬捲りける。佐伯大伴が勢も小辟易とて乱し強
 が敗走と。大伴且大い怒り。憎れ敵の挙動を。馬と進め。名告もり
 む。大分小収手てくる。惠尺是と向合。太刀と電光の如く閃く。五六合戦
 ごとく。人々々々。忽ち且と馬より下小斬て落し。郎黨も皆寄り。首
 次掻く。此且も馬末田が親し。親族なり。多小無道の真鳥小味とて

身を亡し家と滅し多し。浅間山に且己討てて残兵支度路崩さる。佐伯が勢も俱崩さる。茂連男足並と整させんと。頻て下知する。外金道が勢金鍬熊尾が敗卒と追捨て。佐伯が勢の横合より。清の赤く収めて。更なる所。佐伯が勢途で失ひ討る者あり。路を奪て弊ま。或大串が勢山崩り多し。是亦依て大串盤橋奈毛が陣移りと乱し。豊後方ハ惣敗軍となりて。主討るれも。即堂ハ見捨て走り。親討るれも。子ハ顧む。我先と敗まらる。大京軍大不驅。追伐思ふ。分取功名。首と得る。五百余級。生捕百五十余人。及々れを。手始すと。恨び退鐘と鳴と。勢と班。大将の陣。首級生捕と贈実檢ふ。と具々。淡海公緒將の功名と賞美。の初度の勝軍と都へ注進させ。其日ハ内浦の濱。陣と取軍馬の息と休ませ。のひる。

真鳥三笠山出張。栗隈十面埋伏。

豊後方乃緒將ハ半合の軍不敗也。三笠山を退れ。軍勢と直檢さる。小勢と折く。更八百余人。千肩夥く。有名を。佐伯大串那古大野以下。女々々。思ひ互小高議。敵と五双倍の大軍。上初度の軍。小勢勝て。銳氣失く。時カハ小勢。上。新敗軍と士卒。氣と屈れ。此今更ハ對戦志。加勢と乞。再度の合戦。小及んと。衆議一決。豊後の本城。飛馬成。立。加勢と乞。本國の二左右。歩。近ハ山。下。敵。向。む。れ。て。山。上。小。陣。と。固。め。堅。く。守。つ。て。お。ろ。る。京。軍。ハ。敵。の。臆。病。風。の。さ。ら。ぬ。内。亦。散。さん。と。先。陣。二。陣。三。陣。一。勢。と。隊。伍。と。整。と。進。突。先。三。笠。村。と。夜。火。と。燒。拂。廣。野。と。か。そ。三。所。小。屯。一。々。小。敵。昨日の敗軍。小千。懲。り。て。や。敢。て。山。下。へ。下。れ。を。然。る。當。午。より。攻。登。り。降。散。よ。と。先。陣。文。屋。廣。島。二。千。余。騎。を。金。鼓。と。鳴。一。喊。と。奔。り。攻。登。り。坂。道。狭。く。急。峻。な。れ。と。十。人。と。並。び。て。登。難。く。連。と。續。り。押。上。る。所。小。大。友。方。乃。討。

人此所の木間彼所の杣道より頭と出雨の降る下傘小矢を射下るが
小先小立さる士平矢場小百人射落され失疵を被る者數多し
小瘡とて逃下らんとも追々押する勢小まへられ坂半路より人々同著
漸小して逃下りける小ど。廣島言甲斐方く思ひ新平城入久補を被る
て攻上まれば敵所の木間より矢成射りける者多し何の仕出
るる更もおれども又余の坂より攻まらるるも路狭く敵矢を射下する
勵しれを退屈して敵と鈎下まを太声かき者成り擇出し。藤原
散く小悪口させられ敵伐て下されを経方なり。後小兩三日の日を送り緒
將と會合して軍議し。此上六道より豊後攻入を評議し小決り
処小。勿守垣の雅明が密使金道の陣へ来り。密書と亀山太息小度
小より。急だ披見さる小真鳥初度の敗軍と憤り。自身も勢を卒して

三笠山(加勢)の雌雄を一戦小決せん。己小。まゝの同策と廻り討取るとの文
意あれを。大小悦び先使と飯し。金道小斯と告ぐる小。金道雀躍して
ひ須波多年の遺恨と散る時郎至来せりと。急小緒將と招れ集て
商議さる小。阿蘇栗隈進出て曰。真鳥が出張ハ望むれども。渠ハ九列
二嶋小双た死奸勇中て。古の孟施舍北宮黝と。猶及び難る下。
されを力攻めて討せむ。却て味方の将卒と多く損入。唯計略を以て討
ん小。如くくびと言れ。緒將むと同意し。其謀と向小。栗隈答て。智能
乃人々多死小。愚昧の某が異見如何あれも。所存と述さるも。不忠の至たれを
愚意小。お所と。遠慮なく可否と言ひ。先巨細を大将淡海小。出口て
一万余騎の加勢と。物心勢二万余騎と。十隊小。分ち。三隊ハ正兵と。七隊ハ奇
兵。若城山の麓。鹿生の松原。白河堤。其餘杜林竹藪小。埋伏し。正兵の三

隊ハ真鳥と戦ひ、詐り敗して敵と伏勢の地、鈎寄四方より起り立て攻伐
かむ。譬言真鳥が討得むとも、渠が勢を大半折れ、不知此謀略ハ如何
有る。金道も、緒將大の感、宜小上策なりと賞美し
くる小より。栗隈が計略中、決一金道伴連、使をうて内浦ある大
將の本陣へ遣し、軍を言上して加勢を乞ふ。淡海公元思、白豊嶋の
標下、同菅生多良、白主山口、支の四將、小万騎を授て加勢せしむ。連
菟大い、小始ひ拜謝し、加勢の緒將を引く。我王の陣へ立、取リ斯と報しくる。
金道悦び、栗隈小手賦を乞ふ。小ど、即ち栗隈夫、小配當し。正兵乃三
隊ハ栗隈と一陣と、と手勢二千騎、二陣ハ大分、惠尺二千騎、三陣ハ大伴、金道
二千騎、備春、衝猪毛、小道熊、王猛躬、菅生弘、操彦、千、白主、委支、乃
十一將、小千騎、宛と從へせり。緒所、小理伏を、と、千、竹、苦と定め、残る兵、

亀山、太鳥、小授、白川、堤、小埋、伏を、と、と定め、遠く、向者を出して、真鳥
が三笠山へ着陣し、必、窺ハせり。是より、前、小大友、真鳥、ハ味、方、の、軍、將
初度の戦ひ、小、伐、負、加、勢、と、を、使、者、の、来、り、と、れ、む。大、小、怒、り、言、甲、小、及、多、味、
方、の、軍、を、さ、み、此、上、ハ、我、菟、向、て、二、戦、小、蹴、散、し、と、と、ん、と。雅、明、小、下、知、し、て、急、小、兵、
馬、小、救、正、し、り、々、々、雅、明、心、中、小、悦、び、此、度、を、と、真、鳥、と、謀、り、討、つ、。夏、主、の、宿、
望、と、果、さん、と、一、言、も、練、む、と、暗、小、金、道、の、陣、内、通、の、使、と、送、り、軍、兵、五、十、余、
騎、と、救、正、し、已、小、軍、装、繕、ひ、り、音、と、達、し、り、真、鳥、即、ち、出、陣、の、准、備、と、調、
水、原、藤、根、以、下、小、城、と、守、り、せ、雅、明、と、從、へ、自、鳳、十、年、九、月、三、日、小、湯、の、嶽、乃、城、
茂、奈、足、探、小、探、で、路、と、急、せ、り、五、日、の、晚、景、三、笠、山、へ、着、到、し、り、々、々、佐、伯、
以下、の、徒、大、小、悦、び、迎、へ、結、ど、と、出、馬、の、旁、と、謝、し、緒、軍、再、び、銳、氣、と、生、し、り、勇、と、
ふ、さ、び、と、り、者、乃、京、軍、の、介、候、ハ、勉、勵、し、り、真、鳥、が、着、陣、と、報、し、り、栗、隈、下、

知を傳て七隊の奇兵を埋伏の地へ赴けし。備正兵の三隊は今までの陣より十町退れ三段小隊と五旗旗を尋ぐ大軍の屯する体よそをなす。又淡海公内浦の陣と拂ひ三里許進きて屯す。三笠山又真鳥配當と定り大甲飯綱盤橋千足を先陣とす。佐伯連男奈毛沖名と二陣と各二千余騎を授け。自分八垣の雅明大野熊尾那古金銀比出逸雄們を從へ七千余騎を引率し。回天の威を示して九月七日の早天小大の金鼓を鳴し。喊と發す。三笠山を布下し。八津一ヶりなる勢ひかりたり。

京軍破大友勢 并 真鳥大か戦

斯く豊後勢勢盡の廣野を下り陣と張一騎の武者徐くと馬を兼出する。諸人其軍装と入れ。黒革威の鎧の鐵の桃形の五枚兜と著し。四尺余の夷物造の大太刀。鷗尾小帯と短刀指添雁鳥羽の征矢三十六指する。

肩三所藤の弓と握り。雲雀毛の馬の逞し。小鏡鞍おれ甘朋黄の厚子総の鞆けと步躑とす。其武者稍敵陣近し駒を進め。太音小是。大串飯綱殿の麾下。青海鏡男と呼ぶ者なり。京方の陣小我と思ん人あふ某。矢受てん。又と呼ぶ者。其声心ど栗隈が陣より。一騎の武者馬を兼出する。其軍装小藤繩目の鎧。鹿の角の前立物。三枚兜を著し。四尺三寸の野太刀。三尺余の太刀指添。鷗羽の征矢山の如く指する。籠を肩赤丸母衣と肩重藤の弓。捨籠で。連錢草毛の馬。枕色の鞆けと。五腰おれ。棄矢頃と所駒と。五陣扇と。右手小持。高まる。是。官軍の先陣阿蘇栗隈殿の脚内小鳴呼の者有と呼ぶ。塩飽真鹿と。我妻たり。脚辺。乃大串殿も先祖より由緒正。九列武士なる。小朝敵。真鳥小と。乃。笑止かれ。これ。近頃小勝と。邪。正。敵。天討の身。以前。

主と練て官軍小降参り。逆後の悪名を免せられと降りたるを數男大
小怒り。無用の舌を動さん。我二軍前と受よと。五人張の強弓小矢をお
番て忘る。斗争交矢声と俱ふ切て放せむ。羽鳴して真鹿が面と臨み飛往々
小真鹿早く陣扇を以てて拂ひ矢を横へられて遥小飛行々。數男一の
矢を射損ド安かり思ひこの矢をつめて兵と放つ。其矢十と羽音し真
鹿が方へ飛行々。早く身と沈めたるを境とつ。後へ飛行損扱ふま
々。真鹿呵いと安し廣言も似ざる不鍛煉とあし嘲り々。小と數男大
小憤り弓投捨り太刀抜拵り。馬成進り斬り々。真鹿も心得り。太刀
抜をよめ迎合せ馬成寄て歩戦。京方の陣より真鹿討をよと。三十
騎強出り。大串が陣よりも三四十騎出て出迎合と挑し戦ふ。是と合
戦の初より。兩陣より二百騎三百騎強出り。合合々。是後依て數男真

鹿ハ敵味方小押隔られ。物別。双方の軍勢入乱と喚叫り攻戦。大
友方の二陣佐伯奈毛。二千余騎ハ先陣の戦。目もけど。敵の二陣ハ
隊より。大分惠尺が陣。道と廻て會釈もた。擊々る。惠尺の勢も
喊伐奔り。強出り。ち戦ひ々。兼て謀り。更あれ。鮮と浮足。おたり
三町をより引退れ。々と誠ふ敗せ。と思ひ佐伯奈毛の兩將。須波敵ハ色
り。と進々伐やと下知。小連緒。卒勇と進ん。殺到と。大分が勢ハ捲
り。多れ南と。敗ま。三陣の金道が勢。是と。隊伍を整。々
押出。大分ハ入替り。佐伯が勢と。歩戦ひ々。栗隈。陣色。れ。東
の方へ敗ま。大串。般。橋。何國。追も。追て行。是。小。依。て。金道。が。勢
も。堪。り。南。敗。ま。り。佐。伯。得。り。と。隊。も。整。正。も。二。騎。も。余。ま。り。と。勢。ハ
勵。追。行。々。真。鳥。ハ。敵。の。謀。略。も。志。不。成。敗。と。心得。大。小。勇。々

此勢ひは淡海陣と申す一騎も洩さずと慶おせよと自身馬と真先小
躍して強出とふと雅明金鍬熊尾逸雄其餘の諸軍我後と曳く声
しく強進む斯く若城山の麓に半過る処ふ忽ちと喊声震ひ奔り
左の林中より佐春衝之千騎起り矢と射るる雨よりも扇く思ひ
かけ多し豊後勢矢場小百五十騎射し其外矢瘡と肩て大に強死
漂ふ内再び右の林中より坂上猪毛が千騎頭を出て矢禰と造て射
てくる小と又是が為ふ多く射落され倍狼狽て前へ逃るも有後退るも
有春衝猪毛時分はりと競ひを暮地暗く斬るも是も依て大友勢の隊と
三段ふ斬陣られ周障強て途を失ひ只道を求めて逃んく討る者少くは
直鳥ハ斯ともあふ真先馬は進めくも後陣の味方敵の伏勢小討
悩ると告る者有る強は是を救ふ馬と引返すと所ふ勿や左半乃樹林

より吉備小道丹裳熊主が勢喊と奔て撃て出無二無三は難きと
大友が勢大に強死又隊と二段ふ斬られ乱と立てるく真鳥
も物の数ともせと五尺三寸の大太刀真額小抜拵。當て幸ひ切く落す。
太刀ハ業物わり切人を無雙の強力なり。甲も冑も冑も真額梨子割
拜射大如衣沙衣小如衣沙衣體竹割小切捨る程小此太刀下小向者命と落さ
ざるといふ者なく一瞬内小討る者三十余人血煙紅なる乃西路と降さふ彷彿
しく此驍勇小辟易して京軍死靡て敗走と真鳥ハ雲霞段の敵中と
蒐廻る妻無人界を往か如近着者と難き切垣の雅明が冑と吉
備小道が勢をも落花微塵小撃碎て救ひ出し馬を拍て山半へ引返り大
野那古ら取せ竜られ佐坂上が勢の中を喚て馬をけ入蜘蛛掛繩小
切廻るふと京軍尾のく砕散熊尾金鍬必死と免と王小續て敵

を追靡け血路と切実な南戎望んで蒐往々る。却説大串盤橋が勢ハ阿
 二橋栗隈が群眉て逃往を何國追々と追蒐々る小路の側から數の中
 より喊と奔て。飾摩平武躬が千騎伐て出後より難々るふと豊後勢も
 思よぬ不意で伐と大強た急引返と戦々たる小栗隈が兵忽
 ち盛返と短兵急小収手々々れ大串盤橋前後の敵小押包られ討つ
 者數まゝびあや塵塵あゝんとんえ々る処小真鳥が一軍煙塵と揚
 て蒐本軍も中も真鳥ハ真先小馬と進め鐔根まぐ血小染々る大太刀
 と電光の激たる如く揮々。騎馬武者歩卒の差別なく左右前後小
 切々落と程小京軍是小恐怖。人あがれと敗惑々る。大串盤橋を轍
 の射の水と得々る心地。大い小怖々俱小敵兵と切々るふより京軍亦支
 度路小成て敵奔走りぬ真鳥猶も敗る追々蒐往々る小東乃廣野小

一群の軍馬真黒小成と喚叫び攻戦体多々る。是も味方の勢敵の謀計小
 陥りあべいで救ひ得させんと烈風の如く蒐行々る且筑佐伯連男。奈毛沖
 名二人も大分惠尺が敗る追行々る処下間菅生當麻弘が伏兵起り互て矢
 と射々々るあやう兵折れ急引返さると小大分が軍忽ち足並を整
 して取て返り勢ハ猛く斬々々る。豊後勢又是が為ふ多く討れ後退ると
 これも下間當麻が勢路を遮ると一騎も餘さずと切々るふと前後成有る
 変能々ると平眉死々々る。奈毛沖名も惠尺小討と戦ひ十分難義々る
 小大友真鳥阿脩羅王の荒々る如く。虎鬚逆小鏡の如く兩眼と瞋。大
 喝一声雷の如く村雲々々る敵軍小割々入人を切変草と雉が如く。乘馬も名
 小肩背龍の駿足小て近寄敵卒と蹄小蹴敵。荒廻る是も依て鉄掃の如く
 圍り京軍強た乱して兵を靡討々者夥々。圍り解々る。佐伯

九死を免まじ鋭氣を返す俱小敵と追々なる京軍ハ敵ハ勢の加かりをうんく
今、是迄と引退きくれば大友方ハ先ハ手懲り埋伏あんと疑ひく長退す
勢を集て一隊となり日も己小西傾きさう。戦ハ疲り勢を以て淡海が陣を伐
とも利あしとて白河堤をきと引往処小生の松原より豊嶋標石味彦平
ガ二十騎起りまき収束てくる。真鳥更もせむ。味方の勢ハ先小まき近
散し猶英氣盛ん小強性々る。又まき良白土山口委支ガ伏勢起り
矢放射り閑を奔て支へる。或は物し。八方ハ馬兼廻り一擁で廻り
心麻下緒將も真鳥不續て惡戦。太刀の鋼の有入限りと切捲るまを
京軍堪もて八方敗走を日ハ少暮小迫りくる。豊後勢ハ敵ハ逃
る。或幸あり。路と急だて己小白河堤小さくると真鳥何おハハ。河しど
笑ひる。雅明不審小おハハ。君ハ何とさの。笑ひる。と。向小真鳥白我

淡海が兵を用ひる。精々さる。或はたふたり。此白河堤ハ豊後へ敵ハ咽喉を
然も西辺芦直流。一里小余る。長暇なれ。勢放たる。小究竟の場所なり。
若此所ハ伏兵を置む。味方十分難義なる。布れ小渠地理を能察せざる社
拙なれ。と言ひまきさる。小依はとて堤の西辺より喊声大ハ震ひ起り。芦
萱の中より矢を射出さる。横時吹雨より流る。真鳥大ハ小強死馬ハ抱
蒐出と。大将如是なれ。麾下の将平周障惑ハ我先ハ敗んを押合へ
合。矢小中ハ余を落とも有堤より押落されて生捕るも多きなり。此所の
伏兵も龜山太息ガ千騎と。金道ガ手勢七百騎。疾より芦原埋伏し。金
道ハ真鳥を射て落すと。手勢根を待々る。時己ハ黄昏過なれ。疑
と見定さる。是と真鳥あんと思ハ甲乙の矢を射ける。其勢ハいさ。是ハ
かりなれ。も。真鳥ハ重ハ鏡小下具足と。龍巻者ハ衰く。更も力



大友真
血戰未
之 大不敗走



馬を逸れり近過々る如昨日又討りて無念かりたる斯て京
軍ハ日已小暮果々れ退鐘成鳴して勢成班大ハ勝喊と発り討り
首と点檢しとる大將の首二級兎首三百七十三級士卒の首八百五十五級
生捕二百余人降参の者五百余人と紀りたる然ども味方も千三百余人
戦死し々れ織り真鳥ハ強勇人間業とハ思ふれと古の項羽呂布も
猶及むざるなりと緒大將より士卒ハける追比皆をまりとと怕る

京軍攻大友出城 佐伯連雄弓勢

藤原淡海公味方の勝利を安早喜悅限か。翌日陣を三笠山の
林麓不授し多緒將小對面有る。各其軍功を賞美あり。別と阿蘇栗
隈ハ妙計を感賞し多。鞍置馬陣太刀一振引出物わ。栗隈
厚く思茂謝し。借りたるハ真鳥已が勇小誇多く軍勢と折れ銳氣と

屈しハ登し士卒の臆病風醒さる内小豊後へ攻入其疲さる成代り。真
鳥防衛の術及て録伏しハ登し言々淡海公點首のハ予也左
こそ思ひと。其旨ハ三軍小觸知せ其日陣と拂ひ筑前とと。豊後へ
ど進發有る。却泥大友真鳥ハ其夜筑前豊後の國竟ある石坂山
て馬強者味方の勢と待合し多。追く敗兵弛集りたる勢と点檢し
小始二万余騎の軍勢半と減。五千騎許ふなり。其ハ大半手と負々とを
此勢成以て再び敵に向とも利あり。一旦本城敵陣。謀と定り敵を伐
る。と議し。翌日石坂山とと湯の出嶽の本城へと取りたる官軍ハ一勢と
隊伍を整して豊後國へ步入折原明神の後の杜と大將の本陣と。其左右
前後小緒將陣と取家の旗と風小翻し。戈戟を日小耀し。最も
駭しととんえ々る城中乃軍卒官軍の威吞ま。愈恐怖し。拔く小城

然るに悠々と酒宴樂舞何事をや當家の運も是までかりける頼
げ多れ大將の爲ふ命捨て何の益有んと縊れ堀と踏墨と傳て城と抜出
京軍降も有他國へ落るも有て二万余騎の勢七千騎を減し京軍
是と申す手と拍て笑ひ古の張良八箇と吹て敵軍と離散させ今も真鳥
も笛を吹て我勢と減し多ると緋りたる去程小官軍の大將淡海公緒將
と軍儀と城攻の手賦成と定られ多東方も文屋廣嶋丹裳熊主阿
三蘆栗隈其勢三千五百騎南の棚平も飾六武郎下回菅生ヨク良白土山
委支三千五百騎北の大平八六分惠尺佐春衝當廣弘大伴金道三千五百
騎西も山道中攻寄せれば便なれば城兵と抑の爲大鳥稻主三輪直入石
津彦平二千余騎おて山下小屯に残る勢八本陣の四方小陣先隊攻渡り入
替るぞれ準備と扣り柳真鳥が籠る湯の嶽の城も豊後弟乃高山

切切用丸要害堅固の築れ建たれ白雲常小嶺と埋も坂道險く山石
我々を憚ら坂の半道と東へ入ると出丸の砦を築た大平東方両道を隘
敵本城へ攻登りて中途おて支へと構亦敵砦と攻ふも本城より伐て下り出
丸と扶んとと備々もされも攻兵も軍略と廻し先本城を攻り此砦を
先も攻りて猶豫も多東方の文屋廣嶋丹裳熊主阿蘆栗隈の三
將緒平先んご出丸の砦と乗落ると勢と進て押上り一千五百騎を引分て
本城の抑も残る二千騎と西隊ふも一番も文屋廣嶋五百騎おて此
押寄喊を發て攻寄り多此砦も真鳥が庁腕と頼り多佐伯連雄七百
余騎おて空電り多が喊れも合す静り切り敵を掘除やが鈎寄時分
ハハと俄も鯨波と発金鼓を鳴し櫓矢間より雨の降りて矢と射下り多
小と攻兵の威も百騎半射落さん進もて猶豫も多及佐伯が即

三十一

黨者手伎里滋水真道三百騎にて城門を突け撃て出鷹地暗ふ建立
多おと。文屋が勢捲り落されて討ち者七十余人其餘多く手伎里引退る
む。城兵を牛狂引上門が固て守る。攻兵の二番手丹蒙熊主五百騎と
率一捕成被る。攻寄る。小指より岩より指より引結。敵く矢と射下し。
攻兵で猶豫とろ。攻寄より又四百騎并伐て出捲り落して堀と引佐
伯連雄を汎お籠て弓矢携。櫓の楯板用各て顕。出大喜。是は寄られ
く。敵軍の中。三ツ例濱の旗符。筑後任人丹蒙熊主殿と見。遠く
と當城へ寄られ。宮侍小豊後鍛冶が鍛。矢二筋。喰ひ。人我。思
人々を出。受用あれ。と。呼り。是を。使。熊主が。即。黨。池。神。蹶。速。と
名告馬乗出。矢頭お。駒。を。立。更。く。れ。馳。走。呼。り。ら。か。い。其。受。用。仕。ん
と。答。々。れ。佐。伯。く。こ。と。出。ら。れ。う。と。言。さ。る。五。人。張。の。強。弓。小。龍。鳥。羽。の。矢。を

番。並。弓。絞。て。兵。と。放。つ。其。矢。羽。響。く。と。蹶。速。が。面。を。臨。み。飛。來。る。成。身。を。用
た。宙。中。で。擲。んと。ま。々。る。小。取。損。ど。と。鏝。の。千。檀。の。板。と。右。の。小。腹。ま。い。筋。比。深。小。射
通。され。大。吏。の。手。を。れ。只。一。矢。小。馬。より。逆。小。落。二。言。も。言。じ。と。死。う。う。々。る。是。と。ん
く。城。兵。們。射。う。や。く。と。ど。よ。う。れ。々。る。お。と。丹。蒙。が。即。黨。滋。井。一。と。り。者。大。お
怒。り。馬。乗。出。し。御。食。の。矢。天。晴。ふ。返。礼。の。鏝。受。用。あれ。と。い。ふ。より。早。く。弓。矢
亦。番。さ。ら。う。く。身。並。結。て。切。て。放。ち。々。れ。も。鳴。々。音。て。佐。伯。が。方。へ。叱。往。々。る。小。連。雄
閃。り。と。身。を。け。て。是。を。避。か。う。手。早。く。弓。矢。引。固。め。發。止。と。射。る。其。矢。滋。井。が。胃
乃。吹。返。し。成。射。削。り。眉。間。の。正。中。と。香。卷。迫。て。射。込。り。是。は。猶。以。て。痛。手。あれ。と
馬。より。仰。及。小。落。て。死。と。る。絨。小。佐。伯。が。矢。経。早。ち。る。吏。漢。の。黃。忠。も。亦。ろ
や。し。敵。も。味。方。も。感。し。合。々。り。熊。主。眼。前。二。人。の。郎。黨。を。討。せ。大。不。怒。激。
急。小。探。破。ん。と。い。れ。々。れ。々。る。と。栗。隈。孤。島。つ。く。練。り。制。し。此。岩。の。要。害。堅。固。あれ

む力攻ふせんとせむ多く士卒と損むべし。幹と伐む枝自ら枯る理なり。本城
我攻落さむ。此出丸と攻むとも陥落せん。勿論なり。不如本陣の軍勢と
借て此岩と抑へ我徒ハ本城を攻んふと鋭諭し。多ふと能く主理ハ伏し。無
念と忍び栗隈が教不従ハ本陣へ軍使と立抑の勢とを乞ふなり。
京軍攻真鳥本城 并金道断敵城水道

大手の攻将大分惠尺佐春衝當六弘大伴金道們を北坂より攻上り。多
半道小敵の出丸有る。多し。千騎と當六弘小授て抑へ。残る二千五百騎と
三隊小分第一と金道第二と春衝第三と惠尺と定め互小交り。城と攻て
敵と勞し乗入んと。螺と吹立陣太鼓と鳴し。曳く声と攻上り。小坂道急峻
小して輒く上り難れ。も。諸卒或勵し持楯と被せ。稍城際へ近著第一番
乃大伴勢喊を唾と吐り。攻結む。城上も困を合し。精兵の射人を揃て

雨より隘く矢を射下し。多し。楯板と被さる者多く射落され。或ハ矢瘡と
受く。立退く。処を城中より耶古金鐵大野熊尾水原真雀們八景河と
率と収平て出無二無三小切と。攻兵是小捲り。落され。三町斗引退
と。金道後陣より斯とて。須波城兵擧て出。と。近合と付合せ。と。下知
をむす。龜山木免若支。木高伴連。鬼以下心得い。と。七百余騎。多し。
近上り。小敵と早城中へ。引入城門堅く鎖し。木高連。鬼們緒率。小下
知。と。城門を破。と。破。と。声。小呼り。と。れ。を。逆男の者。と。混。と。押寄。多し。小
城上より大木大石を投下して防。多し。攻兵是。か。為。小。壓。小。打。と。勿。心。と。五。六
十人。亦。殺。され。其。余。半。脚。を。損。して。引。退。く。金。道。又。新。平。以。入。替。て。攻。ま。し。れ
と。も。城。兵。の。防。禦。嚴。し。其。後。ハ。出。る。変。も。多。し。付。合。せ。ん。中。も。多。し。
徒。小。兵。を。折。た。力。と。疲。ま。と。の。な。れ。と。二。番。平。の。春。衝。入。替。て。嚴。く。攻。ま。し。と。も。城

兵の守禦強く。城門を破り得む。多く兵を討せし引退れ。多ふより。大命懸
尺金道春衝と商議し。此城力攻め。そ急小落を。城中の勢と鉤出
付入せし。余ふ手段。か。と。皆く攻め。強り鉤出。を。工夫を。廻り。多
借後門。向い。飾。多。良。下。向。山口の緒。將を。險。死。坂。道。と。攻。上。り。多。小。路
殊更。狭。し。山。石。壘。を。登。り。難。れ。も。士。率。と。勵。て。漸。く。城。の。堀。際。へ。攻。寄
逆。茂。木。を。引。退。喊。を。發。す。城。門。を。破。へ。と。も。る。小。忽。ち。城。上。より。大。鐵。盤。石。を。投。下
こと。其。大。ま。三。四。十。人。が。て。運。ぶ。れ。巨。石。を。續。さ。る。ふ。七。八。つ。投。落。し。多。る。が。城。際。へ。寄
し。る。士。率。八。矢。場。の。百。四。五。十。人。微。塵。不。成。て。死。し。り。多。る。是。小。恐。怖。と。緒。率。我
先。小。と。逃。退。れ。其。後。ハ。維。攻。寄。ん。と。り。者。あ。り。皆。屍。籠。と。猶。餘。々。々。ふ。り。四。人
の。將。も。十。計。不。退。く。軍。儀。不。時。な。と。移。り。多。る。借。又。阿。蘇。の。栗。隈。以。下。も
本。陣。の。勢。二。千。余。騎。と。借。て。岩。の。柳。と。本。部。の。兵。三。千。五。百。人。を。三。隊。小。分。各

番手と定め入替りて。手段を。尽。し。て。攻。め。れ。も。城。の。要。害。取。固。多。る。上。城。兵。よ。く
防。禦。の。術。を。尽。し。多。る。が。此。手。も。軍。勢。を。折。く。の。こ。ろ。攻。入。更。能。む。と。三。方。の。攻。兵
皆。退。れ。城。攻。の。評。議。小。室。へ。時。日。を。送。り。多。る。然。亦。或。日。金。道。が。陣。二。人。の。士。率
來。り。龜。山。太。息。小。對。面。せ。ん。が。望。ま。る。が。監。卒。其。由。を。龜。山。小。告。れ。太。息
何。者。小。と。訝。り。か。り。呼。び。對。面。し。多。る。小。其。者。髻。書。の。内。より。一。封。の。密。書。を。取。出。し
密。小。関。の。へ。と。て。差。出。り。多。る。龜。山。信。異。り。表。書。を。示。し。垣。の。雅。明。が。手。跡。あ。れ。ば
子。細。有。り。と。て。用。封。し。續。と。一。遍。と。大。小。始。ひ。使。の。士。率。と。我。陣。中。小。待。せ。せ。て
即。尅。金。道。が。陣。に。到。り。多。る。小。折。り。も。金。道。ハ。佐。春。衝。攝。白。虫。們。と。城。攻。の。評。議
して。居。り。多。る。が。太。息。近。く。進。み。寄。即。ち。雅。明。が。密。書。と。金。道。小。呈。し。敵。城
攻。落。さ。ば。死。時。節。至。來。し。い。と。言。々。る。小。が。金。道。不。言。番。あ。り。披。れ。ん。れ。ば。真。言。が
居。城。と。攻。落。さ。ん。と。城。より。西。方。の。溪。間。なる。老。松。の。邊。り。の。土。中。で。掘。り。一。丈

余小して三ツの石樋と伏する有。是城中の水道なり。是と堀捨る時ハ城中
忽ち水小渴。篁城叶ひが。但彼溪へ行路險阻絶壁。多々ハ繩橋
乃用意あり。此者小引路させ。夜中小行。一夜の中ハ堀捨。夜の明。城内
小引取らぶ。我又手段と以。城内の兵糧と焼尽。互小多年乃宿志
茂果とべ。機密を告越。文意かり。金道限なく。怡。白虫春衝
小。安山書とんせ。何。雀躍して。怡。中。春衝。飲。と。曰。実
曾。參。が。己。小。出。る。者。己。小。及。る。と。言。ハ。宜。あ。る。先。年。百。濟。國。援。兵。の。節。小。我
父の仇を復ん。沙鼻岐怒江の城の間道と探り。知。自。及。ふ。金。鳥。小
子。細。を。結。り。て。助。力。を。頼。む。難。か。敵。城。を。兼。落。せ。小。渠。已。一。人。の。功。名。小。せん。と
飯朝の後。小。我。を。害。せ。んと。せ。告。知。と。者。有。郎。堂。岩。彦。我。を。後。治。り
り。其。身。金。鳥。が。征。兵。と。引。受。て。戦。死。せ。り。我。多。年。此。義。を。遺。恨。小。思。ハ。岩。彦

が。為。小。忍。と。復。さ。る。想。小。今。此。密。計。を。穿。つ。昔。の。遺。恨。と。暗。を。期。ま。り
たり。我。金。道。殿。小。代。り。り。龜。山。橋。以。下。の。人。と。彼。溪。赴。死。敵。の。水。脉。と。断。切。べ
足。下。陣。中。小。在。て。左。あ。ね。体。小。と。て。部。下。の。士。卒。少。も。救。く。此。機。密。と。漏。り
の。な。と。言。た。れ。金。道。深。く。怡。白。虫。太。息。木。高。連。菟。の。余。小。亮。九。竟。乃。郎。堂。と
十五人擇出して。密。吏。と。言。合。十。丈。余。の。指。繩。と。一。尺。間。小。足。溜。の。罟。伏。結。ひ。繩。の
端。小。熊。手。と。結。付。て。十。筋。許。用。意。其。余。鋤。鍬。及。び。入。用。の。具。と。取。揃。一。人。毎。小。筒
火。と。提。九。月。廿。日。余。の。夜。味。方。の。將。率。少。も。知。せ。と。密。小。陣。所。と。潛。出。彼。雅。明。が。使
の。者。と。引。路。者。と。湯。の。出。獄。の。西。溪。へ。と。赴。た。る。其。夜。ハ。霄。より。陰。雲。天。小。滿。り
同。刺。も。あ。る。鳥。夜。あ。れ。も。高。火。の。影。と。便。り。引。路。小。徒。ハ。徑。程。小。道。の。險。小。死
変。り。小。絆。か。或。上。り。或。下。り。千。苦。万。勞。て。城。の。坤。小。あ。る。切。崖。小。著。る。高。火
下。り。と。は。見。ん。小。數。十。丈。の。岩。壁。小。く。鳥。も。翔。り。難。死。切。所。かり。を。れ。と。ハ。要。氣

衆小勝と一輩あれど。氣と勵して繩梯を以て傳ひ下り。これより往更十町許
樹根と探り藤蔓と手繰。幸じて羊麻止大坂の生。深溪ふど割き
る。此時天の陰雲少く絶て下弦の月幽小影さるる。衆人天の助と大
つ小悦ひ鋤鍬を以て土中と堀り。一丈余ふと果して石の窟小堀中。浪
と男と力成併して堀程小難なく三個の窟と堀起し。悦ぶ更限なく。皆
息成休め腰兵糧なごう。又件の男と先小薄月の影を力小難所悪
所を踰五更の頃。其の金道が陣（飯り）で。知者更ふたりたり

雷火焼兵糧 并 此石陷落金道討佐伯

大友真鳥と水脈と断り。更と勢あまき。敵軍久く寄来り。されど大
串般盤橋を先と宗徒の郎黨を本丸（招）集め。敵と追拂をえ軍議と
わして居る。小忽ち兵糧を主とする者。遂に走来り。執達の小就。如

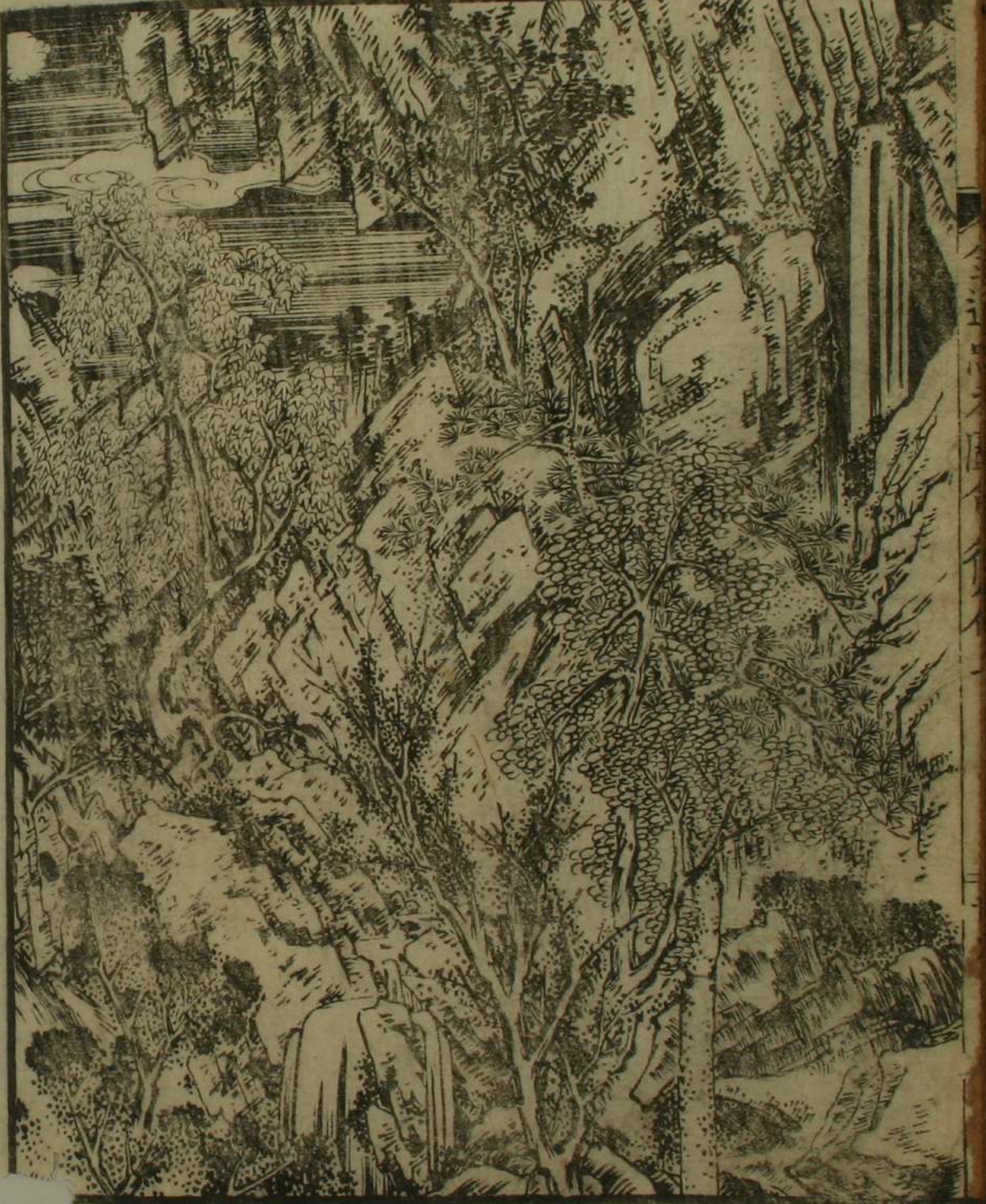
何かるれ中や。算の水止り。一滴も通さぬと云く。真鳥はて何条。此更
有る。其窟小塵芥あとの結。あるを。能凌よと。更りあけ。言々る。小兵
糧役の者。曰某們も左様。小ぞん。いひ。今朝より百般手。成。凌させ
いへも。更小物の結り。一休あも。足え。と。い。言々る。小。真鳥。不審。雅明。小向
ひ。你。起。て。檢。め。来。よ。と。命。を。雅明。謀。針。成。就。せ。り。と。悦。ひ。あ。か。承。り。の
と。彼。所。弛。行。檢。め。ん。ふ。実。一。粟。の。水。も。通。は。さ。れ。ぬ。愈。心。中。小。悦。び。立。成。て
真鳥。小。向。ひ。実。小。三。個。の。窟。悉。く。水。の。通。ひ。止。ま。り。密。を。る。小。敵。將。降。参。の。者
小。城。中。の。水。脈。の。更。と。探。り。更。暗。小。谷。の。窟。と。堀。捨。り。小。や。ゆ。ん。と。言。れ。ぬ。真
鳥。色。成。變。じ。と。大。小。強。死。我。此。城。中。小。多。れ。物。水。かり。然。水。の。手。と。断。れ。ぬ。
筆。電。城。叶。ふ。急。に。源。の。溪。士。卒。と。走。り。せ。見。分。せ。ぬ。と。心。を。合。し
々。る。小。と。雅。明。領。事。人。夫。成。出。と。檢。見。せ。ぬ。小。稍。久。く。走。り。其。者。と。も

馳之。溪間の石掘三ツを掘出。ち碎て有之。報む。真鳥... 一座の葦以外の外小旗... 昨日より東風吹つき... 大雨降る。城中の桶盛水船の類... 貯へむ。三四の水を得つ。其間小溪の水を引... 言々る小鳥真鳥あやふ... 午過より雨降出。漸く大雨... 溜り雨水と運び貯へ。少心... 其故ハ雅明新城と築く時... 糧庫の辺小柴小家と建置... 下小埋隠。浪波といふ火を...

成亡。一時節至来。雷鳴次第小... 初更の頃忽ち柴小家。雷落... 雅明が隠埋。火薬小火移り... 庫小火燃移り。烈くと燃... 乱を如丸雨を犯して火と防... 寄付。能く。只口小井... 前小官軍の中大伴金道八... 今日如見。雷雨厳。敵城も... の砦を攻んと思ふ。如何と... 不虞。成伐。不如今夜夜伐... 藤栗隈殿。不勝。合。大平...



新軍湯の
嶽城の寛
を掘崩を



能く攻破ん易く言ふ。金道悦び早速支那手木高と使
 者。栗隈が許へ夜伐の義を言遣。栗隈むと同意。丹波交
 屋の両将も示し合。日の暮ぬ内より夜伐の用意となり。木高ハ三飯りて
 栗隈が承引の由と金道も報。さういふと金道も佐春衝と招。夜伐の義と
 告ぐる。小是も大に悦び俱用意となり。暮る夜今やと相待。多儲又湯の
 嶽の岩ハ励。雷雨がれ敵の攻寄。八思ひもけ。お寄て酒を
 酌。ハハと。雨中の徒を慰め。ふ日の暮る。小從の風雨倍強。雷
 電。小止。鳴閃。たれを怪。な天変。おと言合。る処。小初夜過。頃。誰
 り。と。本城。出火。あ。と。言。り。強。い。と。佐伯連雄。大。不。狭。れ。る。強。雨。小
 出火。と。心得。ね。と。作候。の。士。平。と。走。せ。て。さ。せ。む。ろ。其。者。們。混。沾。小。成。て
 弛。解。り。本。城。の。兵。糧。庫。へ。雷。霆。落。雷。火。の。為。り。焼。け。たり。と。注。進。を。連。雄。

仰天。今敵軍山下。充滿せる。本城の兵糧焼亡せむ。雷電城せん。一日も
 叶。何。分。も。捨。置。か。れ。大。隻。我。蒐。性。く。実。否。と。見。極。む。る。と。遠。く
 く。馬。曳。出。さ。せ。歩。衆。人。と。す。る。時。も。有。心。ち。大。手。搦。手。同。小。噓。と。喊。の。声。を。登。り
 々。多。い。と。連。雄。又。大。不。狭。れ。是。を。向。更。の。起。り。と。言。も。果。ぬ。内。士。平。們。喘。く。追
 く。小。近。東。り。敵。軍。大。手。へ。押。寄。早。城。門。を。破。り。こ。え。入。と。注。進。を。音。引
 も。切。と。連。雄。ハ。只。夢。小。夢。人。如。心。顛。倒。と。言。知。を。あ。守。増。て。士。平。ハ。手。の。舞
 足。の。踏。と。亡。心。と。太。刀。よ。り。と。半。料。た。と。下。と。及。を。内。搦。手。も。敗。平。脚。を。空。に
 小。と。逃。来。り。敵。軍。所。小。火。を。掛。ゆ。報。途。失。く。狼。狽。廻。り。難。く。入。敵。と
 防。人。と。さ。る。者。ハ。た。り。寄。兵。も。十。不。勇。か。り。大。手。搦。手。も。陣。所。小。火。を。掛
 一。ハ。忽。大。雨。逆。て。煙。と。黒。烟。地。中。滿。く。咫尺。も。見。え。か。た。守。雨。ハ。盆。を。傾
 る。と。雷。電。喊。の。声。と。争。ひ。鳴。凄。く。又。と。り。も。疎。不。て。城。兵。も。只。煙。小。喊。雨。

仁王傳討る者數少きと連雄が頼切る宗徒の郎黨も言申斐か
 死士卒小討るも多かり。佐伯迎も防が死を免る。本城、浴行を近付
 敵と難拂ひく。大半の方へ馬残拍て蒐行多小大伴金道ハ白魚が物落
 又馬來田が横死ハ金鳥と佐伯が合。欺討りたりと及及たれ。夜伐
 小介始り。何卒連雄討取んと。龜山太息と月代將。城内を尋廻リ
 其念カや通下ん金道主徒端かく佐伯と往合龜山火影其と刃とめ彼
 こそ佐伯連雄おこしと告ふぞ。金道大い脱び馬と進て高声ハ如何や佐
 伯殿貴殿伯又真鳥と奸計を合して暗害せ。大伴馬來田が子金道と
 我更かり。時未て只今又の仇を復せと叫々。太刀閃くと斬てとやま
 連雄回答する暇なく。大に怒て太刀抜合し。煙る火光を明としてと戦
 ひる。佐伯が郎黨是とん。主と討せと鬼來ると龜山太息子木兔若

木高連蒐以下蒐隔て撃半戦へり。金道ハ赤物早業鍛煉の上又の仇を討
 んと斬り鋒尖く透間も斬まを老功武勇の佐伯も刀法漸ハ乱を
 受太刀ふかり。金道得ると大喝して敵の肩夫と踏切太刀ハ各小肩
 馳馬丸の名作かり。王を半煉刃れ。綿喘より鎧が小胸板中を斬込と一
 叫り馬より倒れ落るる。金道馬より閃と下抑て首ごと掻小る。龜山
 以下の輩も悉く當の敵討取猶殘兵と見ある。依小切て冷ハる程小城
 兵ハ助る者も稀かり。却活真鳥が本城ハ兵糧庫の火を鎮ん。強
 死する。処小出丸の方小喊声震奔り。火光をけ。見えれ。真鳥再ハ強出
 九ハ夜伐を掛ると。覚ゆる。近行り力助け追拂と下知り。多小依大手ハ那
 古金鍛大野熊尾三百騎中。池向ハ搦手。盤橋千足大串。飯綱五百騎小
 て。蒐向ハ兩之車軸と流とが如く。坂道滑りて人馬もふに。踏められ

踏殺する者少く、暗さへく、雷電をけく。山河震動し、凍れり言結小
絶し、士平心と戦わむ。左右して岩近く下る処、連々と敗来る敗平又路を
妨げられぬ。漸些近者多し、京軍疾より斯有下と知、搦手小文屋丹裳
勢二百騎、城門を固め、搦小上り、雨より遙く矢を射下し、大手小橋の白虫
三百騎、堅く射兵を揃へ、射さず、多し、大友勢の小成て射落れ
更、近寄、更、小能く、城の中、火光熾く、城、喊声、山谷、響き、已、小落城
乃、体、あ、れ、今、六、救、あ、れ、申、も、た、く。大手、搦、手、向、ひ、雨、勢、と、小、兵、と、折、り
の、小、何、の、仕、出、し、も、更、も、た、く。鈍、と、本、城、を、引、返、し、多。京、軍、八、分、小、勝、て
首、を、得、り、百、余、級、焼、死、し、者、數、多、く、敵、一、人、も、た、く、成、多、く、大、小、凱、歌
を、奏、り、燒、殘、し、搦、門、堀、を、破、却、し、脱、ひ、勇、で、蓋、飯、陣、と、多、項、も、風、雨、止、雷、鳴
治、り、夜、ま、つ、と、と、明、ふ、け、る

金道討真鳥復仇并大伴家本領安堵

項羽が山、茂、拔、勢、あり、有、り、も、運、盡、て、八、屍、と、鳥、江、の、土、小、肆、り。王、莽、が、天、下、を、覆、す
逆、威、有、り、も、期、未、つ、八、看、と、城、門、乃、樹、小、鼻、ら、る、果、惡、篡、逆、の、徒、焉、能、長、久
も、更、を、得、ん、大、友、真、鳥、は、き、り、九、列、小、虎、威、を、逞、し、も、多、れ、も、天、の、責、を、免、れ、ど
己、小、水、跡、と、斷、し、兵、糧、を、燒、盡、し、頼、切、く、佐、伯、連、雄、も、戰、死、し、出、丸、は、此、者、さ
へ、落、し、多、し、今、八、百、計、尽、く、絶、え、る、方、便、な、り、此、上、八、我、敵、陣、(近、向、ひ、微、塵
小、軍、研、く、淡、海、金、道、門、を、手、橋、也、佐、伯、が、亡、靈、を、慰、ん、と、大、串、無、搦、小、二、千、余
騎、を、授、て、先、陣、と、し、自、今、八、熊、尾、金、鍛、真、雀、逆、男、猿、人、以、下、の、郎、黨、と、兵、平
三、千、余、騎、を、引、率、し、垣、の、雅、明、小、城、を、守、る、白、鳳、十、年、九、月、廿、四、日、居、城、を、出、て、攻
將、の、陣、を、向、ひ、た、る、且、銳、官、軍、の、陣、小、金、道、栗、隈、以、下、の、諸、將、敵、の、此、者、(夜、伐
を、う、け、城、を、燒、す、)佐、伯、連、雄、と、針、取、義、を、大、將、の、陣、(言、と、)首、を、と、突、檢

小備(こひ)を淡海(たんかい)公(こう)大(だい)に御(ご)感(かん)賞(しょう)有(あ)り中(ちゆう)み金(かね)道(みち)が功(こう)を勇(ゆう)てて手(て)はる金(かね)道(みち)
太(たい)刀(とう)一(いち)振(び)戎(じゆう)を賜(たま)ひる諸(しよ)仰(おほ)る敵(てき)水(みづ)道(みち)を断(た)り出(で)城(じやう)を攻(せう)落(らく)されし久(ひさ)
しく望(もち)電(でん)城(じやう)叶(かな)ひし味(あじ)方(かた)強(かぢ)て迫(せま)り攻(せま)む寛(かん)小(せう)遠(えん)攻(こう)し自然(じぜん)落(らく)城(じやう)
る眾(しゆう)待(まち)危(あや)し但(たゞ)真(ま)鳥(とり)八(はち)音(ね)小(せう)々(さ)々(さ)強(かぢ)勇(ゆう)の音(ね)多(おほ)れ望(もち)電(でん)城(じやう)乃(な)叶(かな)ひし死(し)を
以(も)て死(し)を突(つ)れ伐(た)て下(くだ)り更(さら)も量(りやう)がう列(れつ)将(じやう)其(その)准(じゆん)備(び)とち陣(ちん)と堅(けん)固(こ)小(せう)構(かま)
勢(せい)急(いそ)ぎ緩(ゆる)有(あ)る危(あや)し手(て)と中(ちゆう)渡(わた)されし小(せう)より諸(しよ)将(じやう)領(りやう)尚(しやう)手(て)退(たい)れ湯(ゆ)の嶽(たけ)乃(な)
林(りん)底(てい)小(せう)陣(ちん)と張(ちやう)吏(し)十(じゆう)五(ご)段(だん)一(いち)陣(ちん)と捕(とら)と衝(つ)み射(い)手(て)と揃(そろ)敵(てき)軍(ぐん)寄(よ)来(き)るが
矢(や)襖(たす)小(せう)射(い)手(て)と構(かま)多(おほ)小(せう)案(あん)の如(ごと)し廿(にじゅう)四(し)日(にち)早(はや)天(てん)より城(じやう)兵(へい)伐(た)て下(くだ)り先(せん)陣(ちん)懸(けん)盤(ばん)橋(きやう)
大(だい)串(くわい)三(さん)千(せん)余(よ)騎(ぎ)京(きやう)軍(ぐん)の吉(きち)備(び)多(おほ)良(ら)分(ぶん)三(さん)千(せん)余(よ)騎(ぎ)心(こころ)堅(けん)め陣(ちん)押(おし)寄(よ)典(てん)を
弄(ろう)と矢(や)放(はな)ち攻(せま)る京(きやう)軍(ぐん)待(まち)殺(ころ)す更(さら)なれ雨(あめ)の如(ごと)し矢(や)と射(い)手(て)少(せう)
時(とき)矢(や)軍(ぐん)小(せう)時(とき)を根(ね)ま如(ごと)し京(きやう)方(かた)の大(だい)鳥(とり)當(あた)り三(さん)千(せん)余(よ)騎(ぎ)隊(たい)と押(おし)出(で)敵(てき)乃(な)左(ひだり)

右(みぎ)より伐(た)てらる大(おほ)友(とも)勢(せい)斯(す)とらる備(び)引(ひ)引(ひ)引(ひ)是(こゝ)と向(むか)ひ戦(いくさ)ひる小(せう)又(また)吉(きち)備(び)多(おほ)
良(ら)の二(に)将(じやう)隊(たい)と押(おし)出(で)伐(た)てらる大(おほ)串(くわい)盤(ばん)橋(きやう)三(さん)方(かた)小(せう)敵(てき)と受(う)引(ひ)包(か)すれ戦(いくさ)ひ
雞(けい)義(ぎ)小(せう)八(はち)々(さ)々(さ)大(だい)伴(ばん)真(ま)鳥(とり)三(さん)千(せん)余(よ)騎(ぎ)と魚(ぎよ)鱗(りん)小(せう)陣(ちん)ね自(みづか)身(み)真(ま)魁(けい)小(せう)進(しん)ま
伐(た)てらる真(ま)鳥(とり)が其(その)日(ひ)の軍(ぐん)装(さう)小(せう)燃(も)えむの緋(ひ)威(い)の大(だい)鏡(かがみ)小(せう)龍(りゆう)頭(とう)小(せう)金(かね)の鍬(くわ)
形(かたち)も同(おな)毛(も)の五(ご)枚(まい)兜(たう)を著(ちやく)し熊(くま)野(の)歩(ほ)の頬(ほ)當(あた)りけ太(たい)三(さん)揚(やう)の胸(むね)當(あた)り眼(まなこ)指(さし)の下(した)
ナで引(ひ)せ量(りやう)で五(ご)尺(せき)三(さん)寸(すん)の大(だい)太(たい)刀(とう)小(せう)三(さん)尺(せき)五(ご)寸(すん)の小(せう)太(たい)刀(とう)と十(じゆう)文(ぶん)子(こ)小(せう)帶(たい)二(に)引(ひ)龍(りゆう)乃(な)望(もち)守(まも)り
大(だい)馬(ば)の三(さん)頭(とう)小(せう)吹(ふ)負(お)さる例(れい)の青(あお)龍(りゆう)の駿(しん)馬(ば)小(せう)世(せ)下(げ)濃(のう)の鞍(くら)けり赤(あか)乘(ま)助(すけ)鉄(てつ)
乃(な)荒(あ)る如(ごと)し一(いち)棒(ぼう)小(せう)二(に)三(さん)入(い)ち殺(ころ)すお京(きやう)軍(ぐん)大(だい)小(せう)怕(おそ)れ須(す)磨(ま)馬(ば)例(れい)の鬼(おに)武(ぶ)者(しや)
と用(もち)た乱(らん)して敗(た)る真(ま)鳥(とり)が郵(ゆう)堂(たう)熊(くま)尾(び)金(かね)鍬(くわ)以(も)て下(くだ)の輩(たぐひ)も主(しゆ)將(じやう)小(せう)劣(れつ)と
面(おもて)力(ちから)と勵(むげ)斬(ざん)まらる京(きやう)軍(ぐん)の用(もち)ね殺(ころ)す乱(らん)して大(だい)串(くわい)盤(ばん)橋(きやう)網(あみ)を洩(あ)れ

魚のどく悦び勇く俱不敵と追えたる処東より飾下向山口各三千騎づ
乃新平と將て蒐来り矢を射らるる更雨のどく北より三輪石津大分の勢
合して九千人騎はく豊後勢不近向て矢續不射立南より文屋豊嶋丹
蒙が九千騎馳来て矢射りけし十重廿重不取圍を喊声山河を震動を矢
種の尽る追と射る程小豊後勢的成て射落さる者數さばれども真鳥
と些とも恐まど。奔前雨を犯し。東西南北馬成進り收手て廻るお。或ハ
虚空へお上られ或を大地へお居られ。さかろ船石を以て雜印を碎く。死
亡とる者幾百人とも算さる。是の連く麾下の郎黨又と盤橋大軍們も
我後と敵中伐て入今日と限と惡戦と。是不依て京軍討く者夥くと
りいも豊後勢も又大半討と。或ハ重平薄平肩て落しあ。生捕るも少く
と。さかろ兩軍の喚叫声ハ九天の上不徹。踏裏りを地音ハ堅牢地神を

敬驚と并なく敵味方の死ハ甚と乱せど。鮮血ハ川流がて滿地紅お不斐
い何時果布とも見えたり。茲お垣の雅明、城の田守と獲居る追不
介候と出合戦の勝敗を見せむる。真鳥敵の大軍不取登電られ味方の
將率大半陣没せりと回報さる。真鳥運命も今日限なべと察し
緒卒小向ひて曰々。此城已小水道以断と兵糧と雷火の為不焼と。い進
も籠城叶ず。依て今城小火をくけ。我を戰場へ向ひ。君と俱不戦と。不
你們も君の殉死せんと思ふ者。戰場へ赴た左もなれ者。敵の寄さる以前不
後門より落行よと言渡り。城不残り。士卒ハ老人小者手負お。言
甲斐り死者の。中ハ此言とせ。大不悦び。早我先不と搦手より落行た。多
戰場へ向ふと思ひ。者も落行者お。続れ。俱不鈍く。去去る。雅明又奥向り
女房們も。城不火をく。回早く落行い。と言々。小と。數々の女。大不強死

金道忠孝圖會後言用五 日十一



天誅通とが
う真鳥孝
子金道の討
札此團圖は



惑の周障ふさめて取物もろあど博つまらひは後門の城門より押合へり合
 泣き吐びつ落行るる雅明八年未扶知せ我郎黨も金銀と分ち手暇と
 とくして皆落しかり今と心易しと枯草柴束を積上火茶とぞ死て火を焚
 られを心ち大火と燃上り油所役所ハツを更なりさも珠玉成磨る金銀と
 鏝めさぬ殿宇樓閣も火移り烈くと面禄さる有さる暴秦乃咸陽宮強
 呉の古蕪臺の兵火も火焼せしも斯やと勢針なり雅明八是と後小足捨
 馬も乗ぞ只一騎林麓の戰場へと馳行る去程も戰場も京軍と大友勢
 入乱とく戦へ程小大串盤橋も戦死し真鳥が郎黨金銀熊尾其れ者
 も敵小討も又と自殺し兵卒も恥を知る者も悉く陣死し言甲斐たつハ
 落行或も京軍も降りて今ハ真鳥只一騎小伐され堂符も折兎も打落は
 一六重となり鎧も矢も義の毛乃如くあれる猶も屈せど怒れる髪鬚

逆小三眸裂て百煉の鏡も朱成酒如く馬ハ夢の矢瘡太刀瘡も弱りく
 四足折えろのくれ歩も成て奔雷の如く阿蕪栗隈が隊小會釈もあ
 喚も蒐入例の筋鉄棒も隆くと揮え落花微塵小吸手て廻る小ど返手殺さ
 る者數もたつ瓦のてく砕て敗散り真鳥ハ又佐春衝が陣も散り小矛
 砕た突も蒐抜て本城の方と眺とるれを思煙立昇て天小沖る小ぞ借敵も
 城小火をけりあつと齒もかて蒐往んをる処も金道が手の勢蒐来つて
 取圍も矢放射るも雨のてく真鳥大り怒て猛虎の荒るてく撃て回る程も
 此手も又乱立てええおたる大伴金道八年未祖父の仇やり討て有せんと弓
 小箭も歩番南無弓矢八幡宮神カ加りて祈念し音後て表と敵もあ
 神靈の應心護小や過と真鳥が胸板の鳩尾を裏撥すも射込る大
 隻の手あれもささの猛将尻居小嚏と倒るも何時の程も立難りも金

道が勢中より垣の雅明頭をい出如何や真鳥殿我此年来御身小事一我妹
月小夜并小母の仇を復さん為なり。今を思ひ知ると草摺たくと上て柄も通れと
二カ刺され真鳥大に怒激し刺さるる雅明を捨摺と三回むりり投りたる
其間小金道六馬より下下真鳥が背へ三回太刀放し了小首を伐落し警と
擲んで高く指上九列二島小鬼神と叫ぶる大友真鳥成宿称金道が討留
よりと太音小呼りりるる遠近小群をる猪軍まゝりやまゝりと登る声山川
小を音で動揺し少時鳴り止まりたり雅明其間小鎧の上解り鎧脱捨我
母妹の仇を復さんと伎小真鳥小事種々の悪事を勧め今已小本意と達せり上
る仇の仇思と思敵がく多幸高禄と喰し思義の為小殉死をると呼り
腹一文字小捨切口下枕小伏てと亡小る猪軍足を見り適義心の最期やと
感せぬ者こそなりりるる龜山太息雅明が亡敵と見り涙を流し噫孝なりりる

のりあれぎ 雅明義あるる雅明其母親と妹の仇を報せん敵小膝を屈し事真鳥が
寵遇の思小既されと一旦我と契約の信を守り今日まで私の仇小下と下
て種々及間の謀を廻り我至君小大敵と討せ其身も多幸の宿志と果
功成名遂て生を貪り小敵がく真鳥の恩の為小殉死の義を多し又世小
有難九一人傑がくと楯口鋭感涙小噓々れ金道も白虫以下皆涙を
流しと感と合り斯て真鳥の首と看り討取し首とを淡海公の実檢小具
々れ大将感悦斜めと金道の功賞賞美し猪将の勲功てて小記録を
湯の嶽の城の大と鎮し國中の政勢残る処なく執行ひ十月上旬小豊後と發
駕あり猪将と従り都へ凱陣し小参内と朝敵滅亡の旨と奏進有れ
天皇睿感斜めと真鳥が首級ハ大路と度渡して梟木小肆し淡海公軍功の
第一とて内大臣小任りし金道小本領豊後二國次賜り大伴の家名を再興

其れ。其餘緒將おも各加増と賜り候國をせのひる。金道六時の美田身不
 餘り。厚く天恩と謝りまして退出。叔父吹肩方へつて朝恩の趣えと語り
 是までの慈恩と深く謝り候。吹肩も金道が成功を感賞し。家名再興の義
 を俱小脱と限り。金道へより草壁王の御所へ参候と御禮。上御殿
 を賜りて下宿。龜山又子白魚夫婦木高連菟及び従卒と侍て晝夜下り
 白拵の古城と修理と在城。白虫龜山以下高緑とよみ其忠は頭
 善提寺に於て。又馬来田母共其の追福を修。垣の雅明が墳墓と管と
 其靈を祭。且城下小社を建て寛平白狐を勧請。度々の恩義を酬ひ
 政道正々下民を撫恤と云れ國人悦び懐て一國豊ふ治りたり。諸都小朝敵已
 小亡び四海泰平小飯。仁政八嶋の外まで及び。六万民鼓腹して天武の聖代と
 大伴金道忠孝圖會後篇卷の五 六尾
 仰をいささかぞき出され

著編

浪華 山田意齋先生

圖畫

同 柳齋重春先生

山田意齋先生著
 大伴金道忠孝圖會 前編 五冊 出來
 柳齋重春先生画 後編 五冊

山田意齋先生著
 扶桑皇統記圖會 前編 六冊 出來
 柳齋重春先生画 後編 七冊

高井蘭山先生校正
 平家物語圖會 前編 六冊 出來
 有坂蹄齋先生画 後編 六冊

嘉永三庚十一月
 東都書林 大島屋傳右衛門
 浪華書林 河内屋茂兵衛

釋尊御一代記圖會

全部六冊

浪谷 山田意齋叟參考
前北齋老人圖画

釋迦如來の御父淨飯大王の御即位と發端と橋曇彌摩耶夫人の久内
如來摩耶夫人の胎内小生と託し的事橋曇彌夫人摩耶と娠て胎内乃
王子の出生及幼少道師小呪咀せしむる條如來夢中乃説法小母の十思
と説き及淨飯王藍毘尼園小花の宴と催し及悉達太子誕生の奇瑞
悉達太子御幼稚より菩提心と發し及謂釈迦提婆遺恨の始悉達太
子宮中と出て檀特雪山小難行の正覺成道とて出山と衆生と濟度
及及麥迦葉舍利弗目蓮及諸羅漢佛弟と成和解耶愉陀羅女真心
提婆と十惡須達月蓋兩長者の信心流離王の暴惡釈尊御入滅五妙
神力涅槃像の訳と都て如來御一代の事と記し圖と加ふる難有續本也

發兌

書賈

- | | |
|-------|--------|
| 東京 | 北畠茂兵衛 |
| 同 | 稻田佐兵衛 |
| 同 | 小林新兵衛 |
| 同 | 山中市兵衛 |
| 同 | 佐久間嘉七 |
| 同 | 太田金右工門 |
| 西京 | 辻本仁兵衛 |
| 同 | 藤井孫兵衛 |
| 同 | 片野東四郎 |
| 尾州名古屋 | 栗田東平 |
| 同 | 岡田茂兵衛 |
| 大坂 | 齊橋通博榮衛 |

